聖徒の道　1978年 8月20日発行（毎月1回20日発行）　第22巻第8号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道 8 1978

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会
スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイブレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

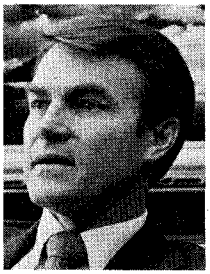
顧　問
マリオン・D・ハンクス
ロバート・D・ヘイルズ
ディーン・L・ラーセン
リチャード・G・スコット

教会誌編集主幹
ディーン・L・ラーセン

国際機関誌
ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」
八木沼　修一（翻訳部長）

表紙の説明
合衆国ユタ州ファーミントンで開かれた初めての初等協会の様子を描いた壁飾り。ユタ州ファーミントンステーキ部ファーミントンロックチャペルに保管。リン・フォーセット画。



もくじ

子供の教育……スペンサー・W・キンボール…… 1
初等協会 100 年の歩み……スーザン・オーマン…… 7
初等協会の果たす役割……ナオミ・シャムウェイ……14
フーリエしまいのしんこう……17
はじめての初等協会……オーレリア・スペンサー・ロジャーズ……18
ジョニーとコニーのしんせつくらぶ……22
むかしのバプテスマ……アリス・ストラトン……25
うるわしき朝よ……ジーン・W・チップマン……28
ローカル・ニュース……33
ブリガム・ヤング……ユージン・イングランド……38
発展する教会教育……ジョー・J・クリステンセン……44
人生にめざめました……48

聖徒の道 8 月号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布 5—10—30
印刷所　株式会社　精興社
配　送　東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4—9—19
定　価　年間予約1,700円　1 部150円
海外予約1,700円
INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

郵便振替口座番号　東京0—41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

大管長会メッセージ

子供の教育

大管長
スペンサー・W・キンボール

初等協会の創立100年を記念する今年，私たちは，世界中の子供たちがこの組織を必要としているという意識をますます強くしている。子供たちは，幼いうちに福音の原則に従って生活することの大切さを学ぶと共に，イエスが救い主であり，天父の御子であるという証を培うようにしなければならない。子供たちを教える最良の方法は，救い主の模範に従って教えることである。救い主は子供たちを愛された。彼らをみ腕に抱き，祝福された。今日の子供たちも，イエスの時代と同じように，愛と理解と思いやりと忍耐をもって教える必要がある。そのために努力を払い過ぎるということはない。これほど価値のある仕事はないからである。私たちは，すべての子供たちに初等協会の祝福を及ぼすようにしなければならない。

初めに，主は男と女とを創造し，「殖えよ，地に満ちよ」と言われた。また，子供たちの世話をし，彼らに正義の原則を教えるようにと命じられた。

私たちの天父は，子供たちの衣食住の必要を満たし，十分なしつけと教育を施す責任を両親に課せられた。そして，ほとんどの親は住居を整えて雨風から子供を守っている。病気にかからないように気を配り，安全に快適

に過ごすための衣服を与え，また健康と成長のために必要な食物を用意している。しかし，子供たちの心に対しては何をしているだろうか。

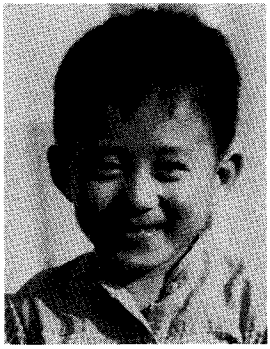
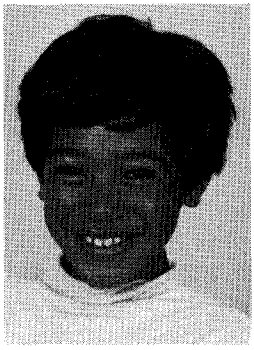
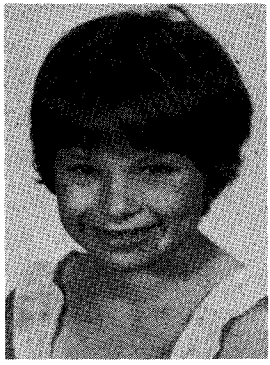
寒い冬に，ほとんどの子供たちは暖かく着こんで学校に出かける。靴底の厚いブーツを履き，厚いコートを着て，首にはえり巻きを巻き，手袋もはめている。すべて厳しい寒さから身を守るためである。しかしその子供たちは，他の若者たちの誤った思想や，時代の誘惑から守られているだろうか。

潜水夫は寒さから身を守るために，ゴム製の重い潜水服を身につける。それと同じように，私たちは子供たちを霊的に冷え冷えとした暗い世界から守るために，祈りと家族の一致と霊的な訓練によって彼らを保護しているだろうか。

屋外で働いている人は，それなりの装いをすれば暴風雨から身を守ることができる。しかし，子供たちは，家族の献身的な生活，愛と尊敬，理解，正しい教育としつけによって，十分な保護を受けているだろうか。

子供たちが学校に行ったり，友達と遊びに出かけたりすると，親にはその子供たちが何を学んでいるか全くわからない。しかし，毎晩時間を取って子供たちに福音の計画を話すようにすれば，その日学んだ否定的な事柄は子供たちの心から消えるであろう。

主はこのことを御存知であった。毎週月曜日の夜，できればその他の夜にも家庭の夕べを開くようにという啓示が私たちに与えられ

たのは，そのためである。すべての父親，母親が少なくとも毎週月曜日，子供たちをまわりに集めて，福音を教え，心からの証を述べたとしたら，この世界はどのようになるだろうか。それでもなお不道徳や非行，不貞による家庭の破壊は続くであろうか。否，離婚は減少し，多くの法廷がその門を閉じるに違いない。

「またお前たちは，自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。またお前たちは自分の子供らが神の律法に背き互いに争ったり戦ったりして，私たちの先祖が言った悪魔すなわちあらゆる義しさの敵であって罪の頭である悪魔に仕えることを許さず，

お前たちは自分の子供らに真(まこと)の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう。」（モーサヤ4：14—15）

両親はその模範と教えによって，成長期にある子供たちの心に，他人の所有物と権利を尊重する精神を植え付けることができる。子供が他人の物を盗んだり壊したりした場合（このようなことが2，3度あるかも知れないが），そのことを子供自身にわびさせ，償いをさせるようにしている親の子供は，やがて立派な市民となり，両親に名誉をもたらす。自ら法律や規則を守る両親は，その模範と教えによって子供にも同様の行ないをさせ，無秩序や不従順から子供を守ることができる。すなわち外面的な規律をよく守らせるようにする時に，内面的な規律もよく守らせることができるのである。自己の確かな信念に従順であることは，他人のそれに従うよりもはるかに大切であり，また喜ばしいことである。

私たちは，社会の指導者でありながら，自分の家族を治め，わが子の不安な心を静められない人，自分の感情を制することのできない人をよく見かける。親が不敬な行為を働くと，それを目にする次代の若者の多くも同じ道を歩まないだろうか。また，親が少しの関心も示さないでいて，子供に霊的で信仰深い，敬虔な人になるように望むことができるだろうか。

両親は，新聞や雑誌を読んで，世の中が子供たちに教えようとしているものに気づいたならば，なお一層の決心をして子供たちをそのような罪や過ちの影響から守るようにしなければならない。そして，世の中で行なわれている悪を相殺し，無力にするような家庭生活を送ると共に，そのようにしつけ，訓練しなければならない。子供たちは世の中の邪悪な事柄を知ると同時に，善い事柄，正しい反応，正しい態度をもまた学ぶ必要がある。現在，家族の祈りや霊的な態度，正しい教えにあずかっていない子供たちが多い。自分の子供にそのような機会を与えていない両親は，子供が適切で健全な訓練を受けられるように二倍の勢力と努力を傾けなければならない。

予言者リーハイは，子孫のことを非常に心配して，次のように言っている。「しかしごらん，私の孫たちよ。私はお前たちに祝福を与えなかったなら安心して死ねない。私はお前たちが従うべき道に従って育てられたなら，その道から外れないことを知っているからである。」（IIニーファイ4：5）そして，さらにこう言っている。「それで，もしもこれからお前たちがのろわれるならば，そののろいがお前たちから取り去られて，のろいの下った責(せめ)がお前たちの両親の頭に帰するように，私は祝福をお前たちに残しておく。」（IIニーファ

イ4：6）自分の子供が道から外れてしまった時，私たちは親としてそののろい，つまり責任を負う覚悟ができているだろうか。

モルモン経は次のような言葉で始まっている。「私すなわちニーファイは善い父母から生れたので，父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。私は一生の中にこれまで多くの艱難に逢ったけれども，生涯主の厚い恵みを受けて，まことに神の恵みと神の奥義とを深く知っているから，私は今一生の中にしたことを記録する。」（Ｉニーファイ1：1）ニーファイは生涯両親の教えに従い，両親から良い指導を受けた。

次に，イノスの言葉にも注意してみよう。彼の記録はわずかであるが，その中に次のようにある。「私イノスは，私の父が父の言葉で教え，また主の愛と誡命とを私に教えたから，父が正しい人であることを知っている。かように父に教えを受けたから，私は私の神の御名を讃美する。」（イノス１）イノスは確かに自分自身の問題を抱えていた。しかし，父親の教えに従って解決し，良く指導してくれた父親に名誉を帰している。

また一方では，親としての務めを果たさない父親と母親に，聖典は罪を宣告している。大祭司であったエリは，息子たちが犯した重大な罪の責めを負わされた。主はサムエルにひそかに言われた。「……わたしが，かつてエリの家について話したことを……エリに行うであろう。

……その子らが神をけがしているのに，彼がそれをとめなかったからである。」（サムエル上3：12—13）

近代に主はこのように言っておられる。「今やわれ主は，シオンに住む民を悦ばず。そは，怠る者その中にあり，彼らの子らもまた今や次第に悪事に増長し」（教義と聖約68：31）と私たちは，ただ自分の虚栄心を満足させるために子供を育てるのではない。私たちの務めは，子供たちが将来王となり，女王となり，主の祭司となり，女祭司となれるようにすることである。

フレデリック・Ｇ・ウイリアムズに対して主は次のように言われた。「汝は，今なお引きつづきこの罪に定められたり。

すなわち，汝はいまだに……汝の子供たちに光明と真理を教え居らず，さればかの悪魔はいまだに汝を支配し居れり，これ汝の苦しみを受くる所以なり。」（教義と聖約93：41—43）

次に，主はシドニー・リグドンに次のように命じておられる。「われ誠に，わが僕シドニー・リグドンに告ぐ，汝はその子供たちに就きいまだにわが誡命を守らざるところあり。故に，まず汝の家を整うべし。」（教義と聖約93：44）

さらに，主は次のように言っておられる。「われ一人に対して言うことは，万人に向いて言うなり。汝らかの悪魔に征服せられて，今居る所より立ちのかされざる様常に祈るべし。」（教義と聖約93：49）

私たちが親として子供を教えなかったことを主からとがめられるとしたら，どんなに悲しいことだろうか。子供が誕生すると，両親には実に大きな責任が課せられる。衣食住はもちろん，愛すること，やさしくしつけること，教え，訓練することが求められるのである。

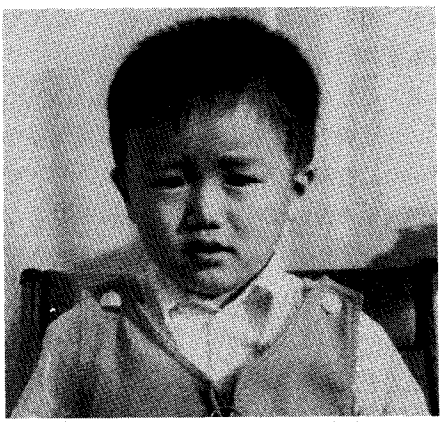
無論，中には，両親が訓練し，教育したにもかかわらず不従順な子供も多少はいる。しかし，大半の子供は親のそのような指導に応えるものである。聖典には，「子をその行くべ

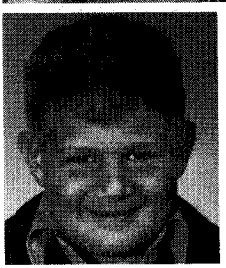
き道に従って教えよ，そうすれば年老いても，それを離れることがない」（箴言22：6）と記されている。仮に道から離れることがあったとしても，正しく育てていれば，将来恐らく帰ってくるであろう。

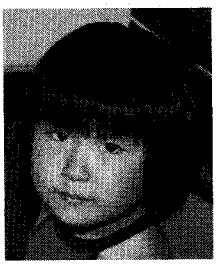
イスラエルの父親と母親が彼らの子供に対する務めを完全に果たしていたとしても，パレスチナの森は消え失せ，一本の草木もない山々となっていたであろうか。彼らの軍勢は打ち破られ，天が鉄，地が真鍮のようになったであろうか。飢饉が国中に広がったであろうか。母親がわが子を食べるようなことがあっただろうか。民は再びとらわれの身に陥ったであろうか。

また，バビロンのすべての父親が，母親の助けを得て，幼子たちを主の教えと勧告に添って教え，訓練していたとしても，あの巨大な都市は砂と腐敗にまみれ，土の下に埋もれたであろうか。また，泉が枯れ，神殿が破壊されたであろうか。飲めや歌えの大騒ぎをして，差し迫った危険を忘れるようにする必要があったであろうか。やしの木や柳の木が枯れ，土地が乾いて荒涼とした有様になっていたであろうか。バビロンは笑い草となったであろうか。また，おおかみやジャッカル，ふくろう，陰気な動物たちがそこに住み，羊飼いやアラビア人がその地を迂回して通るような，そんな町になったであろうか。

古代ローマのすべての父親が，その息子たちに戦いではなく正義を教え，すべての母親







が家庭を子供たちの安息の場としていたならば，またすべての親が子供たちを競技場や公衆浴場ではなく，自分の家庭に集めていたならば，そして子供たちに，純潔，名誉を重んじる心，誠実，清く生活することを教えていたならば，古代ローマは現在もなお世界の強国として栄えていたであろう。古代ローマ帝国を滅亡に追いやったのは，北方からの侵略者ではなく，国内に潜行していた道徳上の腐敗である。

アダム以来世の親たちが，主の命に従ってホームティーチング，家庭の夕べを行ない，家族の集いを持ち，愛ある家庭生活を営んでいたならば，大洪水も，バベルの塔も，ソドムとゴモラもなかったであろう。また，サマリヤの街路が掘り返され，エルサレムの城壁が破壊されることもなかったであろう。

この神権時代に，主は子供を持つ人々に対して，主の基本的な戒めを繰り返し述べておられる。「また，シオン……にて子供を有する両親あらば，……（その子供に）教義を教えて理解せしめざれば，罪その両親の頭に留るべし。（恐ろしいことである！）

およそシオン……に住める者の律法はかくの如し。

また両親はその子供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」（教義と聖約68：25—26，28）

光を輝かすにはふたつの方法がある。ひとつはろうそくとなることであり，もうひとつは光を反射する鏡となることである。両親はそのどちらにもなることができる。子供は，自分が家庭生活の中で経験したことを自分自身の生活に取り入れるものである。両親が度度神殿に行くのを目にする子供は，神殿を中心とした生活を計画するようになる。また，宣教師のために祈ることを教えられている子供は，その心と思いが伝道プログラムに向き，ごく幼い時から霊的にも物質的にも将来の伝道の召しに備えるであろう。

家庭生活，ホームティーチング，親の教育，父親の指導，これらは世の病の万能薬であり，霊的，情緒的な病気の治療法，様々な問題の救済手段である。従って，両親は子供の教育を学校の教師や初等協会，扶助協会，日曜学校，ミューチャルに任せてはならない。父親と母親は，教会のプログラムを活用しながらこの重大な責任を果たさなければならない。主はそのために家庭の夕べのプログラムを啓示して下さったのである。

神は私たちの御父であり，私たちを愛して下さっている。神は多くの勢力を費やして私たちを訓練して下さっている。従って，私たちも天父の模範に倣って，惜しみなく子供を愛し，正義に基づいて養育しなければならない。子供の好き勝手にさせている親は将来失望を味わうであろう。そうならないために，私たちは家庭生活をよく考え，計画して，子供たちが主イエス・キリストの弟子となるように教育しなければならない。

初等協会の責任は，教会の子供たちに福音を教える手助けをすることである。つまり，初等協会には子供たちが両親から受けている教育と訓練を補う責任がある。初等協会の目的は，子供たちを義しい生活をするように促し，幼い時から生涯を通じて正しい決断が下せるように援助することである。私たちは，子供たちの心に証と信仰を育もうと努力している両親を，一生懸命に献身的に援助しなければならない。

初等協会100年の歩み

スーザン・オーマン
キャロル・マドセン

オーレリア・スペンサー・ロジャーズ

1878年，ユタ州ファーミントンの扶助協会役員と，エライザ・R・スノー姉妹を初めとするソルトレークからの訪問者たちが汽車を待っていた。その時，一行の接待役であったオーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹は，日頃から気になっていたある事柄を話し始めた。それは，近所の小さな男の子たちが夜になっても大勢通りで遊び，「中には『不良少年』という汚名を着せられても仕方のないような子供もいた」という事実である。

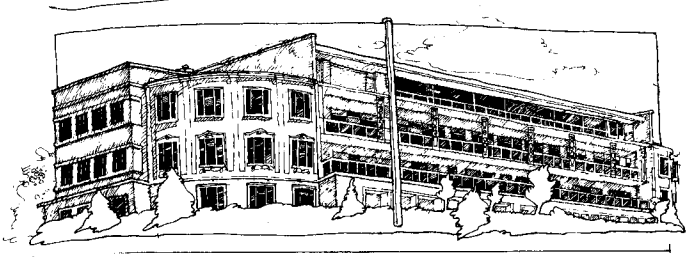
ロジャーズ姉妹には12人の子供がいたが，そのうちの5人は幼くして世を去った。彼女は残った7人の子供に福音の原則を教えなければという気持ちを強く持っていたが，ただそれだけにとどまらず，福音の原則の確固たる土台もなく成長している子供たちにも大人の関心が必要だと思った。

オーレリア・S・ロジャーズ

しかも，ロジャーズ姉妹は単に心配するだけでなく，行動を起こしたのであった。スノー姉妹に提案するに先立って，数ヵ月間あれこれと考えてきた。「正しいことと，行儀とを教える小さな男の子のための組織はできないものかしら？」

スノー姉妹はこのことに興味を持ち，扶助協会と青年女子相互発達協会の管理者として，この件をジョン・テイラー大管長に話してみると返事した。

しばらくしてスノー姉妹は，ロジャーズ姉妹の監督であるジョン・W・ヘス兄弟に，早急に母親たちを集め，子供のしつけについて指導するよう手紙を書いた。その手紙を受け取ったヘス監督は早速，ファーミントンの子供のための組織の管理をロジャーズ姉妹に依頼した。ロジャーズ姉妹は相互発達初等協会（その後間もなく初等協会と改名）の構想をねった。その時に，男の子に初等協会が必要なことは確かであるが，「歌の時間に，



ルイ・B・フェルト

歌を正しく歌うには男の子の声だけでなく，女の子の声も必要である」と感じた。

女の子も加えるべきだろうか。ロジャーズ姉妹は，スノー姉妹からの手紙を読んでそうすることに決めた。「あなたのお手紙を拝見し，心からうれしく思っています。あなたは神の霊感によって導かれています。また，偉大でこの上なく重要なプログラムが，シオンの将来のために始まったことを非常に強く感じています。……ジョン・テイラー大管長もこれを認めておられます。」

初等協会の最初の集会は，1878年8月25日に開かれることになった。ヘス監督の提案で，ロジャーズ姉妹は，新たに召されたふたりの副会長と一緒にワード部の全家族を訪問した。その結果，男子115名，女子100名が登録することになった。そこで彼ら全員を招待し，大勢が集まった。しかし遅れて来る子供たちが多かった。このような子供たちの遅刻と「予期せぬ妨害」（ロジャーズ姉妹はこう呼んでいた）で，集会は「成功とは言えないものだった。」物事の最初は何でもそうであろう。このような状態で始まった初等協会であったが，その目的は初めから明白に打ち出されており，ロジャーズ姉妹は初等協会の時間外にも良い子供であるよう子供たちに教えた。

初等協会は，これまでなおざりにされていた子供たちの必要を適切に満たすものであった。こうしてエライザ・R・スノー姉妹の指示の下に，初等協会が扶助協会と同じように方々で組織された。スノー姉妹は70歳になってもなお各地を旅し，子供たちが見たことのない予言者ジョセフ・スミスの銀板写真と彼の懐中時計を見せて回った。また，ノーブーやカートランドの子供たちの興味深い話をして聞かせたり，「賢明な目的のためにこの時代までとっておかれた貴い霊たちである」ことを説明して，子供たちにこの世における使命を理解させようとしたりした。

今日の初等協会指導者が見たら，これらの集会を聖餐会の縮小版のように思うに違いない。子供たちは50～60人ごとのグループに分かれて（時には100人以上になることもあった），学校やワード部集会所の一室に集まった。対象とされたのは，4歳から14歳までの子供たちである。（1913年から12歳以上の少年はYMMIAに，1920年には12歳以上の少女がYWMIAに移行した。）通常集会に出席する成人は，初等協会会長と副会長だけであった。ある時期には書記兼会計係も子供が行なっていた。教師もいなければテキストもない。クラスのレッスンもない。ほとんどの時間は対話や暗唱，歌などに当て，本が入手できた時にはそれを使った。

エライザ・R・スノー姉妹は活動を取り入れることに賛成はしたものの，福音を教えることがおろそかになることを心配し，1880年代の前半にシリーズものの書物を書いた。これには讃美

歌，対話劇，暗唱文，聖書に関する質疑応答などが掲載されている。

ルイ・ボートン・フェルト（1880—1925年）

メイ・アンダーソン

2年後，子供のためのこの組織は軌道に乗り，エライザ・R・スノー姉妹はこの組織自体の指導者が必要であることを感じ，30歳を1ヵ月過ぎたルイ・ボートン・フェルト姉妹を，初代中央管理会会長に召した。フェルト姉妹は，ソルトレーク・シティーの第11ワード部に組織された2番目の初等協会組織の管理を任せられていた。しかし彼女には子供がいなかった。1951年にラバーン・ワッツ・パームリー姉妹が会長として支持されるまで，自分自身の子供を持つ母親が中央管理会会長を務めたことはなかった。子供のいないことは会長にとって何らハンディではない。フェルト姉妹にとってもそうである。同僚のひとりはフェルト姉妹についてこう述べている。「彼女が子供たちに及ぼす影響たるやものすごいですわ。子供たちはフェルト姉妹に認めてもらえるなら何でもしたことでしょう。」

その影響力はその後45年間初等協会に注がれ続けた。後任のメイ・アンダーソン姉妹は彼女の終生の友人だった。フェルト兄弟はルイの健康を気遣い，出張する時には，いつも，アンダーソン姉妹にルイのことを頼んで出かけた。こうしてアンダーソン姉妹は，献身的な同僚として，また豊かな知識を具えた熱心な初等協会中央管理会会員として，30年近くも彼女の傍らにいた。

フェルト姉妹とアンダーソン姉妹は，各地の初等協会を訪問して，責任のある姉妹たちを励ますことを自分たちの務めと考えていた。そのために，毎年何週間も旅をした。当時の通信は手渡しで行なわれていたからである。

1895年，このふたりはユタ大学に通い，当時ヨーロッパから入ってきた幼稚園について学んだ。そして第11ワード部の教会堂の地下室に個人の幼稚園と託児室を設け，この新しい初等教育法をどのように初等協会に応用できるかを研究することにした。

最初に考えたことは，子供たちを年齢別に分けるということである。そして中央管理会では，次の段階として，各年齢にふさわしいレッスンを用意した。しかし，それを出版しようとした時，思わぬ障害にぶつかった。教会から経済的な援助が受けられないことである。実業家にも頼れなかった。しかし，1901年，中央管理会はレッスンを機関誌「チルドレンズ・フレンド」に掲載する許可を得た。そしてフェルト姉妹は機関誌出版の費用を捻出するために，自分の家を担保に入れたのである。また，初等協会の事務所がなかったので，自分の家を提供した。

彼女たちはもうひとつ立派な功績を残した。ある日通りを歩いていた時，松葉杖をついた少年が困っている姿を目撃した。教会の子供たちの健康を守るにはどうしたらよいだろう？こう

メイ・グリーン・ヒンクレー

して，1911年グローブズ末日聖徒病院に，初等協会後援の小児ワード部が設けられた。その後ふたりは合衆国東部に出かけ，療養所を見学し，子供たちに家庭的な雰囲気の中で専門的な看護が受けられるようにする必要のあることを感じた。そして1922年に，ノーステンプルにあるハイド氏宅が末日聖徒小児療養所兼託児所となった。その年，子供たちの誕生日献金が始められ，病院の整備やその他特別事業に当てられるようになった。

1920年代は，初等協会が合衆国から海外へ根を下ろした時代である。ニュージーランドとメキシコにはすでに1880年代の前半に，またハワイとカナダには1890年代に初等協会が組織されていた。しかし，英国で組織されたのは1916年のことである。その後10年間，家庭初等協会が数多く設けられるようになった。

1930年，初等協会は，家庭初等協会を伝道部に設けることにした。これは2年のうちに，スウェーデンやドイツ，オランダ，デンマーク，スイス，スコットランド，南アメリカにまで広まった。

メイ・アンダーソン（1925—1939年）

初等協会が本格的に世界各国に広まったのは，メイ・アンダーソン姉妹が会長の時である。アンダーソン姉妹は20代中頃に中央管理会会員に召され，親友のルイ・B・フェルト姉妹と共に長年働いた。中央管理会で35年働いた間14年と11ヵ月会長を務めた。

メイ・アンダーソン姉妹はおとなしいフェルト姉妹とは対照的であった。「彼女がまず考えたことは，教会の子供たちの福祉です」と，ある中央管理会会員は語った。「彼女は自分の立てた計画が教師に不都合であっても，両親にむずかしくても一向悩みません。」アンダーソン姉妹の果てしない計画の中には，病院新設と年齢別テキストの作成が含まれていた。

アンダーソン姉妹は，1939年9月11日に，長年携わってきた初等協会の責任を解任された。

メイ・グリーン・ヒンクレー（1940—1943年）

アンダーソン姉妹の後任を務めたのは，イギリスからの移民としていろいろな経験を積んだ有能な姉妹，メイ・グリーン・ヒンクレー姉妹である。彼女は幼い頃に母を亡くして苦労を重ね，十分な教育を受ける機会もなかったが，自ら道を切り開き，ソルトレーク病院の初代事務局長を務めた。また専任宣教師として2回伝道をし，グラナイトステーキ部YWMIA会長を12年間務め，達成プログラムの指導に当たった。このプログラムは後に，教会の若い女性のためのグリーナーガール・プログラムとなった。ブライアント・S・ヒンクレー兄弟との結婚は遅く，自分自身の子供には恵まれなかった。しかし，夫の先妻の子供

たちを養育する機会を得た。その子供のひとりが，ゴードン・B・ヒンクレー長老である。

ヒンクレー姉妹は，母親としての経験がないことを痛切に感じていた。そのため，初等協会の会長に召された時には，とても驚き，これを受けることをちゅうちょした。しかし，彼女の夫は，自分が北部諸州の伝道部を管理していた時に自分をよく助けてくれた妻のすぐれた指導性をよく知っていたので，この召しを受け入れるよう勧めた。

ヒンクレー姉妹が会長を務めたのはわずか3年半であったが，彼女は10万人の初等協会の子供たちのために献身的に働いた。伝道地での経験から，伝道部でも初等協会ができることを知っていたからである。

初等協会は，ある意味でヒンクレー姉妹の指導によって，内容が確立されたと言っても過言ではない。信仰と奉仕を描いた初等協会のシールや赤（勇気），黄（奉仕），青（真理と純粋）の初等協会の色が定められた。教師たちは毎月の聖典の読書課程を読み，初等協会の使命を明白に述べているテーマ「また両親はその子供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず」（教義と聖約68：28）を実践した。

アディール・C・ハウェルズ

アディール・キャノン・ハウェルズ（1943—1951年）

次に会長に召されたのは，ヒンクレー姉妹の献身的な友人であり，第一副会長であったアディール・キャノン・ハウェルズ姉妹である。初等協会は第二次世界大戦後，彼女の指示の下におもちゃや衣類を集め，3,451個もの箱に詰めて，ヨーロッパの会員に送った。ハウェルズ姉妹も友人のヒンクレー姉妹と同じように自分自身の子供に恵まれなかった。また，やはりヒンクレー姉妹と同じように，ワード部の初等協会で働いた経験が全くなかった。しかし，グラナイトステーキ部YWMIAでヒンクレー姉妹の副会長を務めていた彼女は，ヒンクレー姉妹の要請を受けた時に未亡人であったので，ロサンゼルスの家を去り，彼女の下で働くようになった。

夫と世界各地を旅した経験を持つハウェルズ姉妹は，初等協会を子供の創造性を発揮させる場と考えていた。

ハウェルズ姉妹のすぐれた功績のひとつは，新しい初等協会小児病院の建設への働きかけであろう。古い病院を利用した子供の人数は30年間に5,907名にのぼったが，なお設備は不十分であった。1938年に火災に見舞われたため，新しい初等協会小児病院が必要となった。設計図が完成し，敷地が購入されたが，問題は建設資金であった。

ヒーバー・J・グラント大管長の82歳の誕生日祝賀会の際，地域社会の指導者からグラント大管長に1ドル銀貨1,000枚の入った銅製の箱が贈られた。

ラバーン・W・パームリー

これは1938年，メイ・アンダーソン会長の時のことである。大管長はこの銀貨を初等協会に渡し，銀貨1枚を300ドルで売るよう提案した。こうして得たお金を新しい病院の資金に当てるためであった。しかし，第二次世界大戦とグラント大管長の病気のため，この計画はハウェルズ会長の時代まで延び延びになった。そして売れ残った銀貨は文鎮として，1つ100ドルで売られた。こうして大管長の配慮によって，12万ドルもの建築資金が集まった。ハウェルズ姉妹は子供たちにも援助を求め，ブロック1個代として10セントを献金するよう呼びかけた。子供たちはこの呼びかけに応え，2万ドルが集まった。(後に病院が完成し，見学に来たある小さな少年が，ガイドの姉妹のスカートを引っ張りながらこう言ったという。「ねえ，ぼくのブロックはどれなの？」)

ハウェルズ姉妹は1951年4月に死去した。

ラバーン・ワッツ・パームリー (1951—1974年)

長年にわたって初等協会の責任を果たしたパームリー姉妹は，3人の子供の母親であり，経験豊かな学校教師でもある。姉妹はヒンクレー会長の時代に中央管理会会員に召され，ふたりの会長と共に働いた。ヒンクレー姉妹の第二副会長，ハウェルズ姉妹の第一副会長を歴任した後，会長に召された。有能な会長であるパームリー姉妹は，会長会の組織変えを行ない，各ステーキ部，ワード部，中央の役員が同じプログラムの分野を指導できるようにした。また，トレイルビルダー・プログラムを担当したことで，少年向けのプログラムは姉妹の専門だった。そのこともあって，1953年にスカウティングとカブスカウティングが導入されるに至った。これらのプログラムは絶対に必要というわけではないが，非常に価値のあるものに感じられた。しかし，パームリー姉妹にとっては一大事業であった。

病院の指導や「チルドレンズ・フレンド」誌の出版，その他のプログラムの指導のほかに，4年間にわたるスカウティング・プログラムを行なうということは非常に大変で，「石の壁に直面したような気持ちでした」と，パームリー姉妹は言う。そしてデビッド・O・マッケイ大管長から心温かい助言を受けた。「壁は厚いかもしれませんが，後戻りはできません。やってみてもむだではないでしょう。とにかく，壁までたどり着いたのですから。……どこかにはしごがあるかもしれませんし，通り抜けるドアがあるかもしれません」と。こうして初等協会のスカウティング・プログラムは順調に開始された。

1964年に，初等協会小児病院の病棟が1棟増築されることになった。そして，これはパームリー姉妹の任期中に完成した。

初等協会中央管理会会員は，入院している子供たちのためにいつも祈っている。しかし，時としてパームリー姉妹はそれ以

上のことを行なった。ひとりの男の子がえび足の手術を受けるために香港から運ばれてきた時のことである。余病の併発で片足を切断しなければならない状態であった。治ると信じて子供を送ってきた家族のことを思ったパームリー姉妹はこう言った。「両足がそろっていなければ彼を家に帰すわけには参りません。」そして，切断することを思い止まらせた。その後，中央管理会員全員の断食と祈りの結果，医師から，少年の足が回復に向かっていることを知らされたのである。こうしてその少年は元気になって帰国した。

初等協会は，教会の急速な発展に伴って成長してきた。パームリー姉妹は，シンガポールや南アフリカ，トンガを初め，ステーキ部や伝道部のある国々を訪問した際，病院で療養している子供たちを見舞った。

ナオミ・M・シャムウェイ

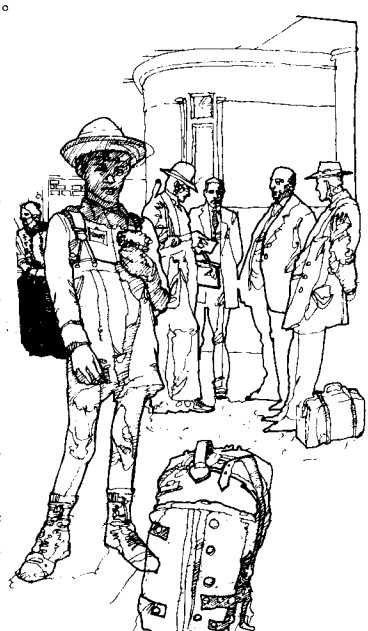
パームリー姉妹の任期中，初等協会はハロルド・B・リー大管長の提唱したコーリレーション・プログラムを取り入れ，その効果を一層上げることができるようになった。また，日曜学校と初等協会のレッスンが互いに補足し合い，完全な福音の原則が教えられるようにするために，特別委員会まで設けられた。さらに，病院の経営を独立させるという世界的な動きの中で，教会は初等協会小児病院の管理から完全に手を引くことになった。

子供に対する圧力と彼らを取り巻く誘惑の増加を痛感した初等協会は，すべての子供を初等協会に参加させるように努力し，家庭初等協会や心身障害児のための特別な初等協会を設置した。レッスンも専門的な教科課程に則り，入念に企画され，それぞれの原則を初等協会のすべてのクラスを通じて何度か強調するように計画されている。

ナオミ・M・シャムウェイ（1974年—現在）

1974年10月5日以来会長として働いているシャムウェイ姉妹は，初等協会の次の100年間の成長を楽しみにしている。「教会員は増え続けているので，初等協会への子供たちの登録も増えることでしょう。また，初等協会を通して子供たちが福音の教えをしっかり学んでほしいと思います。そうすれば，将来のチャレンジに応えるよい備えができると思います。そうなることを私たちは楽しみにしています。」

現在の会長会は，キンボール大管長が初等協会役員にあてたメッセージの中のチャレンジを受け入れ，それを果たそうと努めている。「初等協会の全体的な目標は，神権者を助け，両親を支持して，彼らがその子供たちに祈ることと主の前に正しく歩むこととを教えられるようにすることである。私たちは初等協会の祝福をすべての子供に与えなければならない。」（シャムウェイ姉妹の初等協会に対する抱負については，本書14ページを参照）



初等協会の果たす役割

初等協会中央管理会会長
ナオミ・M・シャムウェイ姉妹
との会見

記者：現在の初等協会の目的は，創設当時と比べて変わっていますか。

シャムウェイ姉妹：本質的には変わりません。問題の対処の仕方は違っても，子供たちに必要なものは，現在も100年前も同じです。ただ，子供の人数が増え，初等協会の開かれている地域が多くなっているだけです。初等協会は絶えず発展を続けています。そして，現在初等協会に登録されている子供の人数は約50万人で，ステーキ部内の平均出席率は68パーセントに上っています。

記者：世界各地の初等協会も，合衆国の初等協会と同様に活発ですか。

シャムウェイ姉妹：もちろんです。オーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹が初等協会のビジョンを描き，それが世界中に広まったわけですが，この組織が多くの子供たちに及ぼしている影響を考えると，本当に胸が熱くなります。

記者：ところで，初等協会の立場から見て子供たちに何が必要だとお考えですか。また，その必要を満たすために，現在どのようなことを行なっていますか。

シャムウェイ姉妹：まず子供たちは福音を学ぶ必要があります。福音が身についていれば，誘惑に遭っても，すでに真の原則の土台ができていますから，何も心配いりません。初等協会のレッスンと活動はすべて，子供たちに福音を教えることを念頭に置いた目標に添って計画されています。また，子供たちにバプテスマの備えをさせることもひとつの務めです。特に少年には神権を受け，それを尊ぶ準備をさせます。すべての子供たちに，おのおのの責任を果たす備えをさせます。また，初等協会は子供たちに非常に大きな影響を与えています。霊的な必要が満たされない時のための霊の錨を備えているとでも言いましょうか。

記者：日曜学校と初等協会はどのように綿密に相互調整を図っているのでしょうか。

シャムウェイ姉妹：このふたつの補助組織のテキストは同じ委員会で作成されており，レッスンの主題は密接に相互調整されています。つまり，同じ概念が日曜学校と初等協会のクラスで同時に教えられるように工夫されています。ただし，重複しないように配慮されていて，互いに補足し合うようになっています。

記者：初等協会は家庭における教育を支援するという目標をどの程度満たしているとお思いですか。

シャムウェイ姉妹：初等協会が効果的にこの目標を達成できるようにというのが私たちの願いです。私たちは両親の皆さんから手紙をいただくことがありますが，ある母親は次のように言っています。息子さんをベッドに連れて行ってお祈りを済ませた時のことだそうです。その息子さんは泥棒に襲われたらどうしようとこわがっていました。そこで彼女は，天父やお父さんや警官が守って下さるから何も心配することはないのよ，と説明して，こう付け加えたそうです。「それに，この家にはそんなに高価なものはないし」と。

ところが息子さんはこう言ったそうです。「でもクリスティーヌのCTRの指輪があるよ。

あの指輪は正義を選べるように助けてくれるんだって。だから一番大切だってクリスティーヌが言ってたよ」と。

記者：ところで，初等協会に出席している非教会員の子供についてお尋ねしたいのですが。どのような経路で彼らを宣教師に引き合わせるようにしていらっしゃいますか。

シャムウェイ姉妹：初等協会の教師が非教会員の子供の氏名を初等協会会長に報告します。そして，会長はワード部コーリレーション評議会でその名前を発表します。次いで神権指導者は，ステーキ部宣教師と専任宣教師のどちらを送るかを決めます。

記者：初等協会の紹介プログラムは，伝道にとても役立つと思いますが，いかがですか。

シャムウェイ姉妹：ええ，それはもう。豆宣教師たちの経験からとても感動的な話が生まれています。数週間前に私はひとりの母親から手紙をいただきました。彼女はお嬢さんを近所の子供たちと一緒に教会の集会に行かせていらっしゃるんだそうです。手紙にはこのように書かれてありました。「毎週木曜日に，母親たちは総出で近所に住む子供たちをみな集めます。教会員であるなしを問いません。そして彼女たちは，互いに関心と愛と誠意を示すように子供たちに呼びかけ，自らもそれを実践しているのです。私の娘もお世話になりました。毎週娘は初等協会から帰ると，天父について私にあれこれと話してくれました。それからいくらもしないうちに，私たちはとても心に強いものを感じ，宣教師の方々からレッスンを受けるようになりました。……私たちの家族は全く新しい世界を歩み始めました。『お母さん，私，初等協会に行ってもいい？ねっ，いいでしょう？』家の中に駆け込んで来るなり娘がそう言った，あの日から，私たちの生活は大きく変わったのでした。このようなことはかつて一度もなかったことです。」

記者：敬虔さを育むプログラムについて少しお話いただけますか。

シャムウェイ姉妹：初等協会は，子供たちに敬虔であるように教える立派なプログラムを持つ唯一の補助組織だと思います。敬虔とは，ただ静かにしていること以上のものです。敬虔とは，従順，謙遜，尊敬，感謝，そのほかキリスト教徒にふさわしい特質を身をもって示すことです。初等協会では指導者も子供たちもこのことを学びます。敬虔さを育むプログラムを通して，子供，教師，指導者が皆，真の敬虔な精神を培い，示すことができるようになればと，私たちは大いに期待しています。また私たちは，子供たちが初等協会で霊的な経験を得られるようにと願っています。同じように教師も霊的な経験を得てほしいと思っています。

記者：初等協会はどのような方法で，少年たちに，神権を受ける備えをさせていますか。

シャムウェイ姉妹：10，11歳の少年を対象としたプログラムで主にその備えをさせるようにしています。アロン神権の回復や執事の義務など，神権に関する素晴らしいレッスンが行なわれます。特に執事定員会会長会が開拓者クラスを訪問し，神権を受ける準備をすることの大切さについてクラスの生徒たちに話します。これはクラスの生徒ばかりでなく，クラスを訪問する執事の兄弟にとっても霊的な経験となります。

少年たちは初等協会のすべてのクラスで，神権を受ける準備ができるよう援助を受けます。初等協会の卒業条件として，什分の一を納め，祈り，知恵の言葉を守り，聖餐会に出席し，聖句や信仰箇条を暗記し，系図を作成することがあげられています。また，神権とは何か，神権が回復されたいきさつ，神権を尊ぶ方法と理由についても，少年たちに理解させることが必要です。メルケゼデク神権とアロン神権の職の違いと，執事の責任についても教えます。

また11月には，11歳の少年と父親あるいは父親の代理人を対象とした「神権予行プログラム」と呼ばれる特別行事が催されます。こ

のプログラムは，少年たちに神権の権能に対する理解と認識を持たせることを目的としています。それまで教会に集っていなかった父親がこの集会に出席することによって，神権者としての自分の責任を思い起こし，神権を尊ぶことに目覚めたという事例が，私たちのところにたくさん寄せられています。

記者：身体あるいは情緒に障害のある子供を持つ両親に対して，初等協会はどのような援助ができるとお思いですか。

シャムウェイ姉妹：地域に数名しかそのような子供がいない場合は，その子供たちを通常の初等協会に入れるよう両親や初等協会指導者に勧めています。その子供たちを助け，分かち合うことを学べるということは，ほかの子供たちにとっても素晴らしい経験です。ほとんどの地域で，身体に障害のある子供たちもほかの子供たちと初等協会でうまくやっているようです。また教会員の非常に多い地域では，2，3のステーキ部から身体または情緒に障害を持つ子供たちを集め，10人から15人編成の小規模な初等協会を開いているところもあります。

記者：特別な初等協会を開きたいという人々のために，何かよいガイドはありませんか。

シャムウェイ姉妹：「初等協会の手引き」にいろいろ指示が出ています。また，もっと詳しい情報がほしいという要請がほとんど毎日のように私たちのところに寄せられています。

記者：家庭初等協会プログラムについて説明して下さいませんか。

シャムウェイ姉妹：家庭初等協会は，地理的条件，病気，あるいはその他の理由で，教会での初等協会に出席できない子供たちのために開かれます。その場合，普通は監督または支部長から召しを受けた母親が指導者となり，初等協会会長の指示の下に働きます。メリーランドのワルドルフとアッコシークの例を御紹介しましょう。そこに教会員の家族が住んでいました。そこは教会から非常に遠かったため，子供たちは通常のワード部初等協会に出席するのがとても大変でした。

そこでワード部の初等協会会長は，家庭初等協会を設けました。そして，会長と担当副監督はしばしば一緒に家庭初等協会を訪問したそうです。この小さな初等協会は，春に聖餐会で発表をし，そのほかの特別プログラムにも参加したそうです。この家庭初等協会に出席した子供の半数は非教会員で，これらの特別プログラムはその子供たちの両親を招待する素晴らしい機会ともなりました。こうして小さなグループは支部になり，やがてワード部へと発展しました。

記者：教師や両親に何か一言お話いただきたいのですが。

シャムウェイ姉妹：そうですね。まず教師の皆さんにお願いしたいのですが，子供たちにイエス・キリストの福音を教えるという聖なる召しの大切さを十分に認識していただきたいと思います。

毎週初等協会で子供たちに霊的な経験を得させることが必要です。もちろん楽しませることも忘れてはなりません。子供たちの待ち焦がれる初等協会でなくてはなりません。教師や指導者は努力次第で子供たちにそのような気持ちを抱かせることができます。

記者：それでは両親の方々にはいかがでしょう。

シャムウェイ姉妹：両親の皆さんには本当に感謝しております。お子さん方は私たちにとってもかけがえのない子供たちです。これからも引き続き快く初等協会に送り出していただきたいと思います。私たちは子供たちの霊的な成長に深い関心を寄せております。私たちには皆さんの助けが必要です。お子さんが初等協会から帰りましたら，話を聴いてあげて下さい。私たちには，福音を教える良きパートナーとして皆さんの協力が必要です。しかし何よりも大切なのは皆さんの模範です。

世の将来はこれらの子供たちの双肩にかかっているのです。

フーリエしまいのしんこう

ケープタウンの空は，黒い雨雲にすっかりおおわれていました。「どうして，こんな日に雨がふるんだろう」と，子どもたちは思いました。

その日のごご，子どもたちは，パンをうることになっていたのです。それが，雨のためにできそうもありませんでした。

子どもたちは，雨の中を教会へむかいました。フーリエしまいは，いつものように，みんなをあたたかくむかえました。そして，パンがだめになってしまうので，どうしてもきょう，うってしまいたいこと，町の人たちにかってもらうためには，教会の外でうらなければならないことを，話しました。

「雨がやむように，みんなでおいのりしましょう。そうすれば，きっとやむわ。初等協会のために，お金がいるんですもの。天のおとうさまは，きっとたすけてくださるわ。」

みんなは，フーリエしまいといっしょにいのりました。

すると，なん日も，はげしくふりつづいていた雨が，たちまちやみました。しかも，たいようが雲のあいだから，かおを出しました。こうして，パンはぜんぶうれてしまいました。

テーブルを教会にもどしはじめたころ，またポツポツと雨がふり出しました。そして，雨は3日間つづきました。

このフーリエしまいは，南アフリカの子どもたちを，34年間も教えました。

はじめての初等協会

「火事だ！　火事だ！」

ファーミントンの村の人びとは，大あわてでした。近くの小川からバケツリレーで水を運び，火を消さなければならなかったからです。そのように，消火せつびがないために，一度火事が起こると，ほとんど何も残さずにもえてしまいます。

オーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹は，「火事だ！」というさけび声を聞いて，かけつけました。友だちにかしていたロジャーズ姉妹の家は，暑い8月の空に黒煙をあげてもえていました。1902年の夏に，ロジャーズ姉妹は，30キロほど南に行ったソルトレーク・シティーに引っ越していましたが，その後も，ときどきファーミントンに帰ってきて，仕事をしたり，冬にそなえて果物を集めたりしていたのでした。ちょうどそのときに，この火事が起こったのです。

ロジャーズ姉妹は，すぐに消火の列に加わりました。そして，バケツリレーをしながら，かわいそうな友だちのことを考えていました。ロジャーズ姉妹は，そのように，自分のことよりもほかの人のことを考える人でした。そのとき，ロジャーズ姉妹は，初等協会の記録を2階の部屋においていたことを思い出しました。「きせきが起こって，記録が焼けませんように！」ロジャーズ姉妹は，心の中でいのりました。けれども，家はすっぽりとけむりに包まれていました。

「あのときは，本当に悲しかったです。記録さえ残れば，自分のものはどうなってもよいという気持ちでした。」ロジャーズ姉妹は，あとでこのように言っています。

友だちが新しい家へうつるのを手伝ってから，ロジャーズ姉妹は，ソルトレークへ帰りました。けれども，初等

協会の記録のことがわすれられず，次の週に，またファーミントンへ出かけました。そして，できるだけ多くのことを調べて，初等協会の歴史を書き直すことにしました。

すると，ファーミントンでは，あの火事のときにおいのりした「きせき」が，ロジャーズ姉妹を待っていました。

火事のとき，セクリスト監督は，ポーチにのぼるようにという気持ちを強く感じました。そこで監督は，少しでも何かを運びだせたらと思いながら，まどをこわして部屋に入りました。けれども，けむりがいっぱいで，何もできませんでした。そのとき，指先がテーブルカバーにふれました。そこで急いでそれをたぐりよせ，手あたりしだいに本を包んで，外にいる人びとにわたしました。このようにして，神の導きにより，記録は守られたのです。

この記録には，最初の初等協会のことが書かれていました。のちに，ロジャーズ姉妹は，この記録をもとにして，子供向けの本「人生のスケッチ」を書きました。その本の中で，ロジャーズ姉妹は次のように書いています。

「子供たちは宝です。私たちはそのことをよく知っています。天使がいつも守ってくださいますように。」

ロジャーズ姉妹が，子供たちのための組織をつくろうと，しんけんに考え始めたのは，1878年3月のことです。男の子たちに，正しいことをするよう教えなければならないと強く感じたからです。ロジャーズ姉妹は，天のお父さまに，いっしょうけんめいにいのりました。そのとき，ロジャーズ姉妹は，心の中に熱いものを感じました。

それからしばらくして，エライザ・R・スノー姉妹が，扶助協会の姉妹たちに会うため，ファーミントンにやって来ました。そして，ソルトレークへ帰るために駅へ行くと中，ロジャーズ姉妹の家に立ちよってくれました。そこでロジャーズ姉妹は，男の子たちのことを心配していることを話しました。福音を教えなければ，りっぱな人になれるはずがないと，ロジャーズ姉妹は考えたのでした。子供たちを教える組織をつくれないでしょうかというロジャーズ姉妹に，スノー姉妹はしばらくじっと考えこんでから，「できるかもしれません。大管長会に話してみましょう」と答えました。

そのとき，ジョン・テイラーが，大管長代理でした。ブリガム・ヤング大管長が死んだあとで，まだ大管長が決まっていなかったからです。ジョン・テイラー長老は，スノー姉妹から話を聞いて，ほかの十二使徒たちと相談し

ました。それから，ファーミントンのジョン・ヘス監督に，指導者を選ぶように手紙を書きました。そして，ロジャーズ姉妹が会長に選ばれました。

それから，ロジャーズ姉妹は，男の子だけでなく，女の子もいっしょに集めることにしました。

副会長には，ルイーザ・ヘイト姉妹と，ヘレン・M・ミラー姉妹が選ばれ，新しい組織は，エライザ・R・スノー姉妹のていあんで，「初等協会」と名づけられました。この3人の姉妹たちは，ヘス監督の指示で，さっそく，ぜんぶの家をほう問して，子供たちをさそい，また両親の許可を求めました。その結果，115人の男の子と，100人の女の子が，初等協会に来ることになりました。こうして，1878年8月11日，日曜日に，ワード部のすべての人びとと子供たちの集会が開かれました。そしてこの日，ヘス監督とふたりの副監督は，ロジャーズ姉妹たちの頭に手をおいて，3人をファーミントンの初等協会の会長会に任命しました。

ヘス監督は，たびたび初等協会に出席して，よく助けました。また，自分が出られないときは，ほかの神権者に代わりに出てもらいました。初等協会ができて間もなく，スノー姉妹から次のような手紙がきました。

「あなたは神の霊感によって導かれています。また，偉大でこの上なく重要なプログラムが，シオンの将来のために始まったことを，非常に強く感じています。」

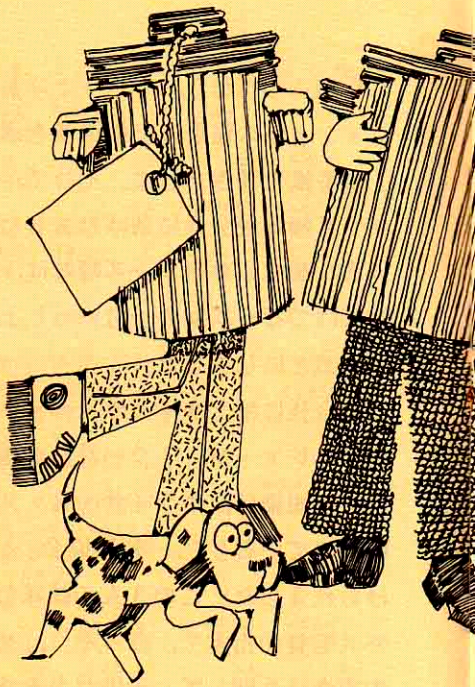
あの火事からきせき的に守られたロジャーズ姉妹の記録によれば，はじめての初等協会は，1878年8月25日に開かれています。ロジャーズ姉妹は，そのときの様子を，次のように書いています。

「集会では，従順，神を信じる信仰，祈り，時間を守ること，行儀作法について，何度も教えた。……子供たちは小さい順に前からすわった。一番小さな子供たちが立ちあがり，みんなでいっしょに，詩を少し読んですわる。それから，次の列の子供たちが，聖書の質問に答える。また，クラスごとに，歌を歌ったり，詩をおぼえたりする。

……次の年の春，私たちは町の土地をかりて，ききんのときに備えて，豆ととうもろこしを植えた。」

100年前の1878年に，アメリカのユタ州ファーミントンではじめて初等協会が開かれたとき，子供たちは200人と少しでした。それが今では，子供たちが50万人，子供たちを教える人が，3,000人にもなっています。

ジョーとコニーのしんせつクラブ



ながいなつ休みも　もうすぐ　おわります。

「ねえ，コニー。なにをしようか。いつもおなじあそびで，ぼく　あきちゃった。」

「わたしもよ。そうだ，クラブをつくらない？」コニーは　いいました。

「クラブって？」ジョーは　ききかえしました。

「クラブってね，いっしょに　なにかする人たちの　あつまりなの。」

「どんなことをするの？」

「やきゅうクラブとか，すいえいクラブとか，いろいろあるわ。」

「それはいいけど，ふたりっきりじゃね。」

「ふたりっきりでできるクラブをつくるのよ。」

「どんなクラブ？」

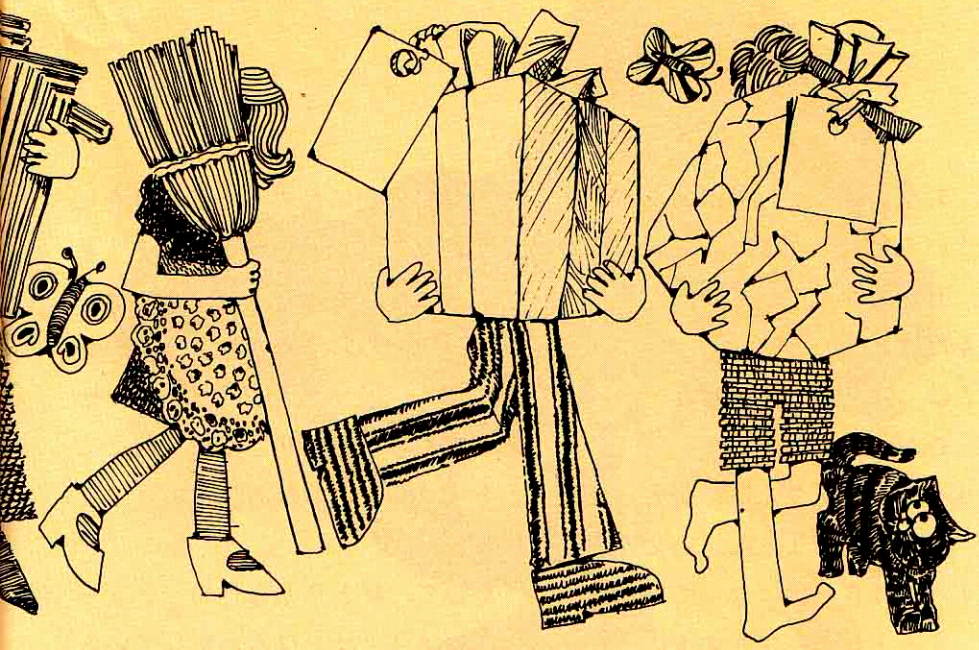
「そうね。しごとクラブはどう？」

「えっ，しごとするの。ぼく，いやだよ。おもしろくないもん。」

「あら，そんなことないわ。たのしいしごとをすれば　いいのよ。」

「じゃあ，なにをするの？」ジョーは　コニーに　たずねました。

「たくさんあるけど。よいことをして　みんなをおどろかせるのはどう？」



「きっと　びっくりするだろうね。」ジョーは　にっこりわらうと，すこしかんがえてから　いいました。「『しんせつクラブ』って　よぼうよ。」

「ええ，いいわ。まず　なにをすればいいとおもう？」コニーがききました。

「パパが　へやのかたづけをしなくちゃあっていってたよ。」

そのよるのことです。ゆうごはんのときに，おとうさんが　いいました。「きょう，ふしぎなことがあった。パパが　かえってくると　へやがかたづいていたんだよ。へんだなとおもっていたら，ドアに　このかみが　はってあったよ。」

おとうさんは，とてもうれしそうに，「しんせつクラブ」と　よみあげました。ジョーと　コニーは，かおを見あわせて　にっこりしました。

つぎの日，ビリーが　たいくつそうにしていました。ジョーと　コニーは，さっそく「しんせつクラブ」のことを　はなしました。

「ぼくも　いれてよ。」ビリーはたのみました。

「いいよ。だれか　たすけのひつような人はいる？」ジョーは　いいました。

「いるよ。おばあさんが　びょう

きで，おかあさんが　おばあさんを
びょういんに　つれていったの。だ
から，おかあさんの　てつだいをし
たいんだけど。」

3人は　はりきって　ビリーのい
えへ　むかいました。

ビリーのおかあさんは，かえって
きて　びっくりしました。いえの中
が　すっかりきれいになっているの
です。すると，テーブルの上に「し
んせつクラブ」とかいたかみが　お
いてありました。

つぎの日，3人は　びょうきでね
ているジェーンを　よろこばせてあ
げることにしました。どうわのほん
を　きれいなかみにつつんで，「しん
せつクラブ」とかいたかみをはって，
こっそり　ジェーンのいえの　げん
かんにおきました。

それからも「しんせつクラブ」の
にんずうは　ふえました。やがて
きんじょの人たちみんなが，「しん
せつクラブ」の　うわさをするよう
になりました。

エドワーズおじいさんは，「しんせ
つクラブ」がにわの　くさとりをし
てくれたことを　ビリーのおとうさ
んに　はなしました。

ジェーンのおかあさんは，にわか
雨のとき，「しんせつクラブ」が　せ
んたくものを　とりこんでくれたこ
とを　コニーのおかあさんに　はな
しました。

そして，ひとりぐらしの　ジョー
ンズおばさんは，ひるねをしている
あいだに　げんかんのそうじがして
あったことを　となりの人に　はな
しました。

ジョデーのおかあさんが　赤ちゃ
んをつれて　びょういんからかえる
と，きれいな花が　げんかんに　お
いてありました。

このように　「しんせつクラブ」
は　おおぜいの人びとに　しんせつ
にしました。そして　まい日を　い
そがしくすごし，やがて　たのしい
なつ休みは　おわりました。

ほんとうにたのしく，人びとのた
めにやくだった　なつ休みでした。

むかしのバプテスマ

アリス・ストラトン

8さいになったまごのクレイトンのバプテスマが，ぶじにおわりました。家にかえって，みんなでバプテスマのおいわいをしていたとき，まごのひとりが，わたしに「おばあちゃんも，あんなきれいな水で，バプテスマをうけたの？」と，いいました。

わたしは，にっこりわらって，こたえました。「いいえ，おばあちゃんが子どものころは，きれいなバプテスマ・フォントはなかったのよ。うたもうたわなかったし，お話もきかなかったの。それに，しんせきの人たちもあまりこなかったわ。」

わたしは，小さなまごたちにせがまれて，とおいむかしに，じぶんがバプテスマをうけたときのことを，話しました。

わたしの小さいころ，ハリケーンはまだ小さな町でした。わたしは，8さいのたんじょう日に，ハリケーン水路でバプテスマをうけることになっていました。とてもうれしくて，その日をたのしみにしてまっていました。ところが，たんじょう日の4日前に，水路がやぶれてしまったのです。

みんなは，とてもこまりました。くだものの木や，ぼくそうは，水がなければ，かれてしまいます。町の男の人はみんな，つるはしとシャベルをもって，こわれた土手のしゅうりにかけつけました。

いよいよあすがたんじょう日という日，わたしは，少しは水がながれているかもしれないと思い，土手をのぼって，水路を見おろしました。けれども水はまったくなくて，水路のそこはひびわれていました。わたしは，かなしくなりました。「ねえ，おかあさん。どうするの？　水がないのに，バプテスマをうけられるの？」

「おねえさんたちのように，温泉に行けばいいわ。」

「だって，おねえさんたちのたんじょう日は，冬だったでしょう。今は7月よ！」

おかあさんも，バプテスマをのばさない方がよいことを，知っていました。みんな，8さいのたんじょう日に，バプテスマをうけることになっていたからです。

「ほかの場しょをさがしましょう。いっしょにいらっしゃい。」

あんずの木の下に，牛を入れるかこいがあり，ちょうどその外がわに，あなをほってつくった，水のみ場がありました。

「ここでバプテスマをうけられるわ。」

わたしは，水ごけがういているのを見て，思わずぞっとしました。

「よくあらって，水そうからきれいな水を入れればいいわ。」

「だって，おかあさん……」

わたしがなきだすと，おかあさんはいいました。「だいじょうぶよ。きっと，今に水がながれるようになるわ。」そういって，だきしめてくれました。

そのとき，レンおじさんの，日ぐれまでに水路はなおるかもしれない，という声がきこえました。わたしは，たいようがしずみはじめたので，土手にのぼって見ました。けれども，水はありませんでした。わたしは，がっかりして家にかえりました。夕ぐれの空を見あげると，星がひとつ，かがやいていました。

「天のおとうさま，どうかあすまでに，水がながれるようにしてください。」

わたしは，いちばん星を見つめながら，そういのりしました。

それからしばらくすると，ざぶざぶという音がきこえてきました。それは水路をながれる水の音でした。その音はだんだん大きくなってきます。日ぐれまでに，水路がなおったのでした。

「天のおとうさま，ありがとうございます。」水のながれる音にあんしんしたわたしは，まくらをだいて，いつのまにかねむってしまいました。

つぎの日のごご，水のながれはしずかになっていました。わたしは，おかあさんとレンおじさんにつれられて，水路にむかいました。水路には，友だちやいとこが，土手のやなぎの木のかげにこしをおろして，わたしたちをまっていました。レンおじさんは，どろですべるきしをおりて，水の中に入り，わたしに手をかしてくれました。

水めんは，日の光をうけてキラキラとかがやき，やなぎのはが，ふねのようにながれてゆきました。

風はしずまり，レンおじさんは，バプテスマのいのりのことばをいいおわると，わたしを水の中にしずめました。水から出て目をあけると，みんながにこにこしながら，わたしを見ていました。わたしは，とてもしあわせでした。

「おかあさん，わたしバプテスマをうけたわ！」

すると，おかあさんは「そうよ，バプテスマはしんせいなぎしきなのよ」と，いいました。わたしも，そうだと思いました。おかあさんは，わたしをやさしくだきしめてくれました。

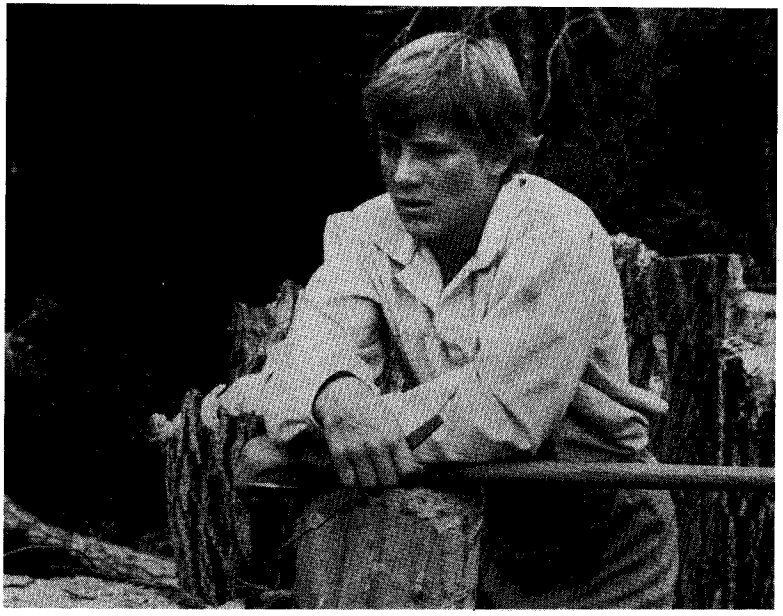
厚い雲が空一面をおおい，雨がしとしとと降り続いていた。カメラマンたちはじっと空を見上げる。なお雨は降り続く。彼らは天気が回復するように祈った。けれども，一向に雨の止む気配はなかった。

時は1975年の春。その週の内に撮影が終わらなければ，来年のこの時期まで撮影を延期しなければならない。間もなく季節も変わる。それに，主役の少年も金曜日には帰らなければならない。このような状態の下で迎えた月曜日の朝，一行は夜明け前に起きて，天気は回復するだろうかと考えながら，撮影機器のセットを始めた。すると突然，雨が止み，陽が射してきた。しかも，その陽光の下で目にする霧は，実に美しい。雨にぬれた，たけの高い草がきらりと光った。そして鳥が一斉にさえずり始めた。こうして一行は，カメラに決してとらえることのできない自然の美しさを満喫したのであった。

ブリガム・ヤング大学映画制作部の一行は，このようにして「最初の示現」の森の場面の撮影を開始した。予言者ジョセフ・スミスの役を演じるスチュワート・ピーターセン兄弟は，1820年の早春の「一点の雲もない美しい

うるわしき朝よ

ジーン・W・チップマン



朝」（ジョセフ・スミス2：14）の出来事に思いをはせながら，草原の中を聖なる森に向かった。

「最初の示現」は，レッスンや伝道に用いる教材として，教会の依頼によって制作された史実に基づく映画である。そしてその内容は，ジョセフ・スミスがヤコブ書1章5節を読んで熟考した後，いずれの教会が本当か神にうかがう決心をした，1820年春の，ニューヨーク州パルマイラにおける出来事を中心としたものである。

その美しい月曜日の朝を皮切りに，撮影で多忙な日々が続いた。そして木曜日に再び天気が悪くなった。しかも雲は前よりも厚く，雨もひどかった。けれども，この映画で大切な場面の撮影がまだひとつ残っていた。明るい陽射しの下での撮影が必要である。ジョセフが明るい陽の光の下を家に向かって駆けて行く場面がそれである。一行は金曜日の朝，森とジョセフの家の間に広がる草原の中央に，高さ5メートル余りの足場を組み，カメラを据えた。そして，もう一度特別な祈りを捧げて待った。すると間もなく雲間から陽が射し始めた。撮影の再開である。ところが一行が一通りの撮影を終えると，それを待っていたかのように，再び雲が閉ざし，暗くなってきた。「終わったよ！」制作主任のデビッド・ジェイコブズ兄弟は言った。「これで十分だ。」

「最初の示現」の模様を記した記録にあるように，ジョセフ・スミスは森に入ってひざまずき，主に祈り始めた。すると突然，文字通りの暗黒を感じ，「何とも知れぬ力によって捉えられ……目に見えぬ世界から来た何ともわからぬ生き者」の力に打ち負かされそうになった（ジョセフ・スミス2：15—16）。このような悪魔の力を具体化し，映画にすることは非常に困難である。しかし，デビッド・ジェイコブズ兄弟は，撮影のためにニューヨーク州へ向かう飛行機の中で，最近見つかったジョセフの記録についての研究資料を読んでいた時，次のような文章を目にした。「私は自分の背後に，自分の方に向かってだれかが歩いて来る音を聞いた。私はもう一度一生懸命に祈ろうとした。けれどもできなかった。足音はだんだん近づいてくるように思われた。私は急いで立ち上がり，辺りを見回した。しかし，だれの姿もそこになく，足音をたてるような物は何ひとつなかった。」（ディーン・ジェシー，*Early Accounts of the First Vision*「最初の示現に関する当時の記録」より）デビッド・ジェイコブズ兄弟は次のように言っている。「これこそ，暗黒の場面に取り入れるのに格好だと思いました。ドラマチックですが，実際にあったことなのです。」

この映画の制作で一番問題となったのは，御父と御子の訪れの場面であった。神の示現は非常に神聖である。従って，それを画面に出すかどうかは，軽々しく決められない。その時，教会幹部のひとりがジェシー・ステイ兄弟（映画制作部長）に，「最初の示現」の告げる最も重要なメッセージのひとつは御父と御子がそれぞれ別の御方であり，世で言われる三位一体ではないという事実だと思うと語った。こうして決定が下され，御父と御子の訪れが画面に描かれることになった。

「最初の示現」の映画制作は，他の映画の場合と著しい違いがある。音響効果係，カメラマン，出演者，監督，衣装係，化粧係等，全関係者がわれを忘れて，良い映画制作に打ち込んだことである。彼らは立派なものができれば，伝道にも役立つし，証を強めるのにも助けとなることを知っていたのである。「私がそのように語る時の『真剣な顔』を見てみんな笑うんです。でも，映画を見て霊的に鼓舞される人がいれば，それは主が私たちの努力に祝福を与えて下さった証拠だと思います。」ジェイコブズ兄弟はこのように語った。

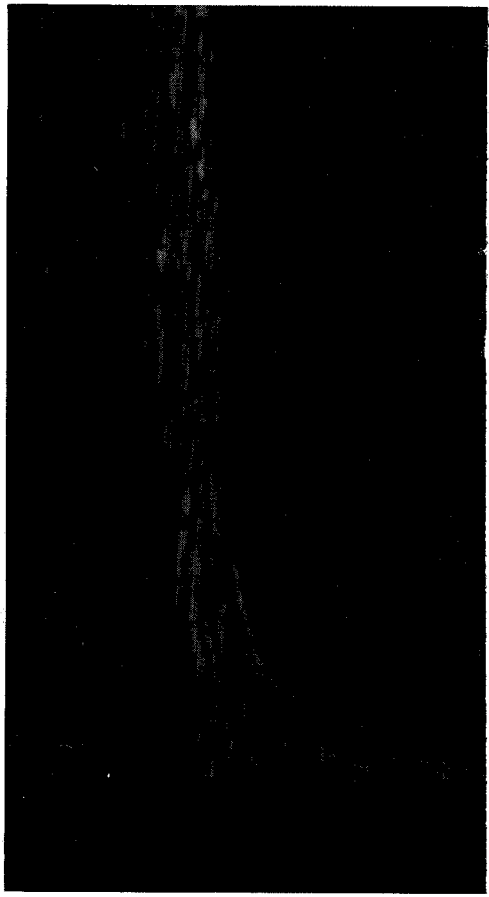
☆　　☆

キリストの教えから背教した長い暗黒時代の後，神は再び御自身のことを人類に明らかにするために，ひとりの予言者を召されました。神が，14歳の少年ジョセフ・スミスの謙遜な祈りに答えられたのは，1820年，ニューヨーク州パルマイラの近くでのことでした。

「私が14歳の時でした。……私たちの住んでいた土地に宗教上の非常な騒ぎが起こり……この騒ぎは間もなく，その地方の全教派に及びました。

この大騒動の間，私は深く考えさせられ，大きな不安を感じずにはいられませんでした。牧師たちの全部が正しいはずはないし，神がこのような混乱を引き起こされるはずもありません。私はもっとよく調べてみることにしました。

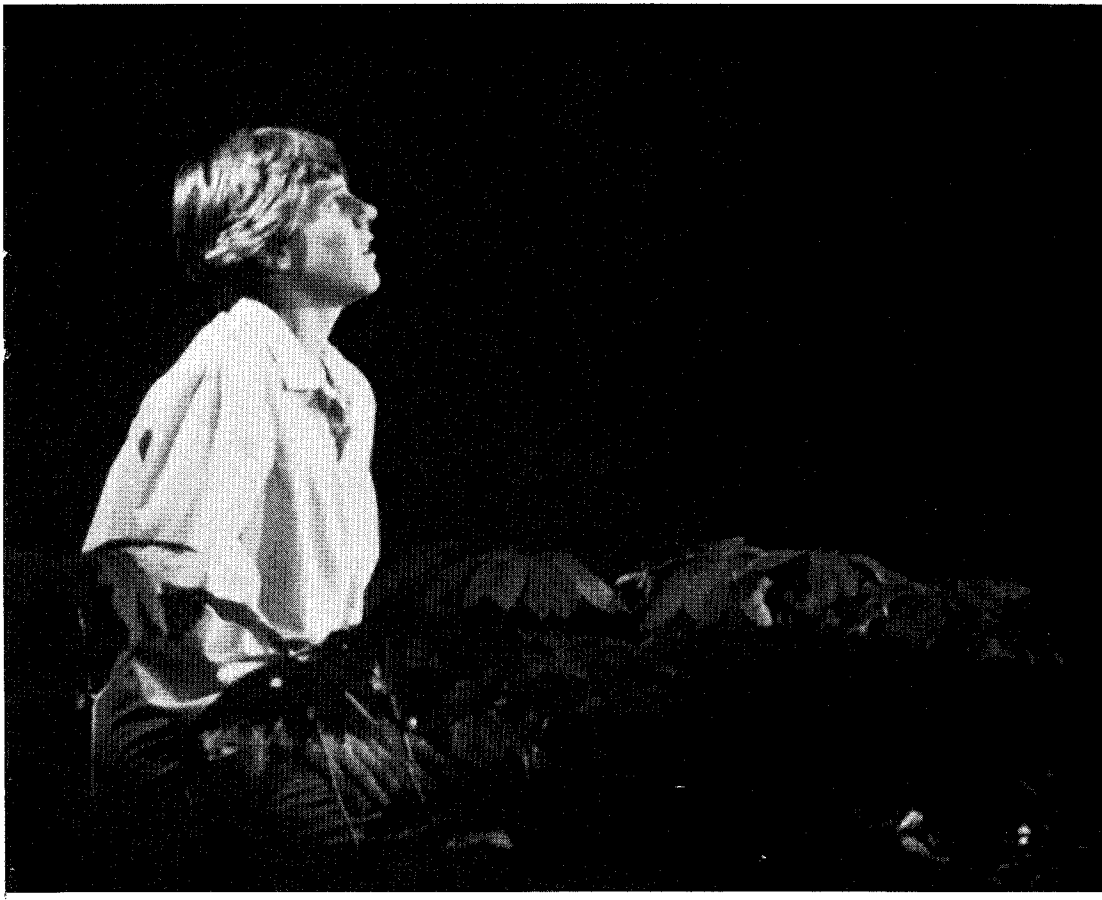
ある日のこと，私は新約聖書のヤコブの手紙第1章5節を読んでいました。『あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば……神に，願い求めるがよい。』



この時ほど，どの聖句にもまさってこの言葉が力強く心に迫ってきたことはありませんでした。それはまるで，心の奥底を大きな力が貫き通すようでした。

私はこの言葉を再三再四思いめぐらし，もしだれか神からの知恵を必要とする人があるならば，それは私であると思いました。

神に願おうとした私は，人目を避けて森に入りました。時は1820年の早春，晴れわたった美しい朝でした。



私は前もって決めておいた場所へ行き，辺りを見まわして人のいないのを確かめてから，ひざまずいて，心の願いを神に祈り始めました。

ところが，祈り始めるや否や，私は何とも知れぬ強い力にとらえられ，その驚くべき力により舌はしびれて，物を言うことができなくなってしまいました。

目の前が真っ暗になり，私はそのまま死んでしまうのではないかと思いました。

私が今にも絶望し……わが身を見捨てようとしたその瞬間，私は自分の真上に，一筋の光の柱を見ました。その光の柱は次第に降りてきて，光はついに私の上にふり注ぎました。

その光が現われるや否や，私はわが身を縛った敵から救い出されたことに気がつきました。

そして，光が私の上にとどまった時，私は筆紙に尽くしがたい輝きと栄光とを持つふたりの御方が，私の真上の空中に立っておいでになるのを見ました。

そのうちのひとりの御方が私の名を呼び，もうひとりの御方をさして『こはわが愛子なり。彼に聞け』と仰せになりました。」

こうして，ニューヨーク州北部の森の中で，少年予言者に，神のみ言葉が告げられたのでした。「私はいずれの教会に入ればよいのでしょうか。」ジョセフは謙遜に尋ねました。すると主は，「そのいずれにも加わってはならない」と命じられました。それと同時に，近い将来完全な福音が明らかにされるという約束が下されました。

主は再び天を開き，アダム，アブラハム，モーセ，パウロなどの予言者と同じように，ジョセフに語りかけられたのです。そして予言者ジョセフ・スミスを通して，また彼の最初の示現とその後に受けた啓示を通して，イエス・キリストの福音とまことの教会が完全なかたちでこの地上に回復されたのでした。

（ジョセフ・スミス2：5—20参照）

宮城県沖地震に学ぶ

日本仙台伝道部
仙台支部
原　三　城

このたびの地震にあたって，多くの兄弟姉妹から励ましと援助をいただき，心より感謝申し上げます。

今年世界最大といわれたこの宮城県沖地震，特に都市型の地震として多くの犠牲を強いられ，多方面から大きな関心が寄せられているこの地震を体験し，私たちはたくさんのことを学びました。「備えよ」という勧告を主から与えられている私たちにとって，このたびの地震はひとつの試しと言えましょう。

地震があったのは，6月12日午後5時15分頃で，丁度夕食の準備時でした。そのため，電気，水道，ガスが止まった中で，多くの市民は食料品店へ殺到し，暗い店内で，棚から落ちた食料品を踏みつけながら，手当たり次第に食料を買いあさりました。幸い，食料品は比較的豊富でした。けれども，燈火のたぐい(懐中電灯，電池，ろうそく)はすぐに売り切れてしまいました。そのような中で，私は主の警告に聞き従っていたことを感謝せずにはいられません。必要な食糧が確保できているということは，何と心強いことでしょう。おかげで私たちは的確かつ迅速に次の行動をとることができました。地震後，2，3時間，電話も不通の状態の中で，ほかの人々に援助の手を差し伸べることができたのは，ほんの一握りの人々だと思います。また専任宣教師は素早く各所で救援活動に携わり，会員間の最大の情報源となり，暗がりの中にいる私たちに勇気と安心感を与えてくれました。

翌朝，その被害の大きさに，私たちは改めて身の震えを覚えました。文明の力（ガス，水道）の復旧は遅く，特にガスについては配管設備の破損がひどく，地震から数日経てからも，復旧のめどさえつかないという状態です。

私たちはその後，ファイアサイド等の集会で，この体験から得た教訓について話し合いました。「備えよ」という勧告に，教会員のほとんどの家庭は忠実でした。しかし，水を貯えていた家庭はほんの数パーセントしかなく，貯水の方法が今後の課題となっています。備蓄していなくて困ったものは，主に「水，燈火，燃料」の3つでした。また，貯蔵食料を一年振りで開けたある家庭では，2，3割が何らかの理由で食べられない状態だったそうです。貯蔵品の普段の点検と利用も考えなければなりません。そのほか，地震で家屋に大きな損傷を受けたある会員は，土盛りをした土地の弱さを指摘しています。

このように大勢の人々が被害を受けた中で，ほとんどの会員が無傷であったことに，また主の戒めによって守られ，教訓を得たことに，心から感謝しています。すべてをイエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

日本における教会の将来

七十人第一定員会会員 菊地良彦長老との会見

本誌：日本と韓国の地域担当教会幹部として，この地の教会の管理，指導に当たっていらっしゃる立場から，日本における教会の将来の展望についてお聞かせいただけませんでしょうか。

菊地長老：大管長は，以前から度々，全世界に福音を宣べ伝え，すべての人々にこのメッセージを知らせたいという考えを話しておられます。またこの度，人種や肌の色を問わず，資格あるすべての人々に神権が授けられるようになりました。まるで，神様の方から私たちに向かって走って来ていらっしゃるように思います。また，大管長を初め，他の教会幹部の方々が日本人に対して抱いている期待の大きさを，すなわち神様とイエス様が日本人に寄せていらっしゃる大きな期待を，私はひしひしと感じます。

私は，日本の聖徒の皆様が，霊性，清さ，強さにおいて，什分の一，断食献金のみならず，もっと高度の律法，財産奉献の律法を守ることができる程の強い信仰を得て，イエス様の再臨に備えることができるように，心から望んでいます。

大管長のビジョン，願望を正しく日本の方々にお伝えし，それを日本で実現すること，それが私の務めであると思います。

大管長は，1975年4月の地区代表セミナーで，「日本人の方々が千人の宣教師を出し，また，時至っては1万人の宣教師を出して，モンゴル，中国，ソ連方面に日本人宣教師を派遣できるようにしてほしい」とのビジョンを述べられました。それに対し，私たちはどのように備えるべきでしょうか。

腰の帯をしっかりとしめ，大管長が神様から霊感されている大きなビジョン，展望を認識して，個人の救いと昇栄は勿論のこと，神と自分の関係をもよりよく認識し，また信仰生活にそれがどのような関係を持つかをよく理解し，聖徒一人一人が一致協力して，王国の発展に尽くさなくてはなりません。

そのためには，教会のすべてのプログラムに豊かな祝福を受けることのできる完全なステーキ部の状態を早く日本の各地に確立することが必要です。

モロナイ書10章31—33節に記されているように，目を覚まして塵の中から立ち上り，美しい衣を着，その「くい」を強くし，すなわちステーキ部を強め，とこしえにその境を広げ，すなわち各ワード部がステーキ部になり，また伝道部が真に強くなり，地方部が強くなることが必要です。キリストのみもとに来て全くなるために，みこころに反することをすべて捨て，勢いと心と力とを尽くして神を愛するならば，その与えられる恵みは充分です。私たちはキリストの流したもうた血により聖められ，恵みを受け，世の汚れを真に取り除かれ，キリストのみもとに入る準備をする必要があると思います。イザヤ書54章2—3節でも同じように述べられています。シオンの幕をしっかりと強く張る綱，すなわち愛の絆，信仰の絆で，ステーキ部を強固にし，確立し，私たちの家庭に，各個人に神の誓約が果たされる状態を作るために皆様一人一人と力を合わて努力したいと思います。

昨年，ヒンクレー長老が訪問された時，私たちはチャレンジを受けました。東京に神殿が建立されるまでに日本の会員数が5万人になったら素晴らしいということです。私は神様の助けがあればできないことはないと思います。

教義と聖約50章28—29節にありますように，私たちが本当に潔くなれば主のみ名によってすべてがかなえられます。全教会員が全身全霊を尽くして

潔くなり，キリストのみ名によって語るならば，日本において近い将来，メキシコと同じように，あるいはそれ以上に教会を強くすることができます。ベンソン長老は，日本はアジアの地において福音を広める要石（かなめいし）になると，はっきり言われました。マシュー・カウリー長老も日本の各地に神殿が建つであろうと言われました。そのような日を迎えるために，会員の皆様は，身も心も霊も天父に捧げ，神様の助けを借りて，断食をし，祈り，情熱を抱き，神様の威勢と権威を持ってみ業を助けて行かなくてはなりません。

私は今から3年ないし5年の間に日本に30—40のステーキ部ができて，時ならずして日本のほとんどの人々に福音を伝えることを可能ならしめるために伝道活動を活発にして行きたいと思います。具体的にどのような場所にシオンを打ち建てたいかと言いますと，現在のステーキ部，すなわち東京，大阪，横浜，東京北，大阪北，名古屋ステーキ部のほかに，私たちが努力するならば，今年中に札幌，福岡，沖縄，高崎，仙台等にステーキ部の準備ができると思います。来年，再来年には，札幌にもうひとつのステーキ部，東京東，埼玉，町田，東京西，名古屋にもうひとつ，京都，神戸，堺，岡山，高松，広島にステーキ部の準備ができると思います。そして千葉，新潟，松本，静岡，三重，金沢，姫路，北九州，熊本，鹿児島にもステーキ部の準備ができると思います。また現在のワード部がステーキ部，地方部がステーキ部へと発展する時代が必ず近い将来にやって来ます。予言者が提示しておられる伝道プログラムに励むなら，さらに多くのステーキが組織されます。日本で多くのステーキ部，シオンが確立できることでしょう。

本誌：長老が尊敬していらっしゃる方はどなたですか。

菊地長老：私は心から神様とイエス様を愛しています。それに現在のキンボール大管長もです。彼の謙虚な生活態度，しかもその中に秘める大きなビジョン，安易なことに妥協しない熱心さを心から尊敬しています。

本誌：長老が信条としていらっしゃることと，若人に期待される事柄をお聞かせいただけますか。

菊地長老：私はすべての事柄は，主のみこころにかなうならば必ずできると信じています。それが正しい祈りにより決定され，しかも主のみこころにかなっているならば，できると思ったことは必ずできるというのが私の信条です。そしてこの信条によって物事に対処したいというのが私の希望です。

特に教会の若い方々に申しあげたいと思います。宣教師になることを目標とし，会員として戒めを守り，人々への模範となるまじめな生活をすることは基本的なことですが，この世に居る間に自分は何を行なうべきか，何を行なえば神様の栄光を輝かすことができるかをよく考えることが大切です。そして職業の選択をまじめに考え，いったん決めたことは必ず成し遂げるという信仰と信念と情熱を持って行動に移してほしいと思います。この人生をどのように生きるかをはっきり見定めて日々の生活に対処して下さい。あらゆる分野で一番になって神様の栄光を輝かしていただきたいのです。その道で超一流になって下さい。それによって神の息子，娘としての神様の栄光を輝かして下さい。若い皆さんはこのことを是非行なっていただきたいと思います。

本誌：最後に証を聞かせていただけますか。

菊地長老：私は教会の幹部という責任をいただくに当たって，今でも，ふさわしくない人間だと思っています。そのことを何度も申し上げました。しかし大管長から，「神様は啓示によってあなたを召すようにおっしゃいました。そして，キリスト様御自身があなたをお呼びになりました」と言われました。私はそれを伺った時，本当に私の命を捧げてもよいと決心しました。み業を推し進めるために主が日本人の中から幹部を召されたのは，日本の皆様の信仰が強いからです。

神様は日本人を，また全アジアの人々を愛していらっしゃいます。そして今私たち一人一人に計り知れない期待と希望と関心を持っていらっしゃいます。

私が皆様の僕となって働くことができるように，助けを与える僕となれるように，皆様のおゆるしと助けと祈りをいただきたいと心から願っております。

日本の隅々に至るまで神の王国が揺るぎなく堅固に打ち建てられるためには，全教会員の熱情的な聖き祈りと心と手と，ステーキ部や伝道部や地方部の役員に対する支持と励ましが必要です。さらに，積極的な意見と助けも必要です。すべての聖徒が一致した気持ちと心で同じ車を押せば，神のみたまが降り注がれ，この日本の地が祝福され，聖められ，み業は力強く進んで行くことでしょう。

（P.37に続く）

菊地長老の描くビジョン

日本札幌伝道部部長
鈴木正三

日本東京北ステーキ部部長
岡本亮

地区代表
アーサー・K・西本

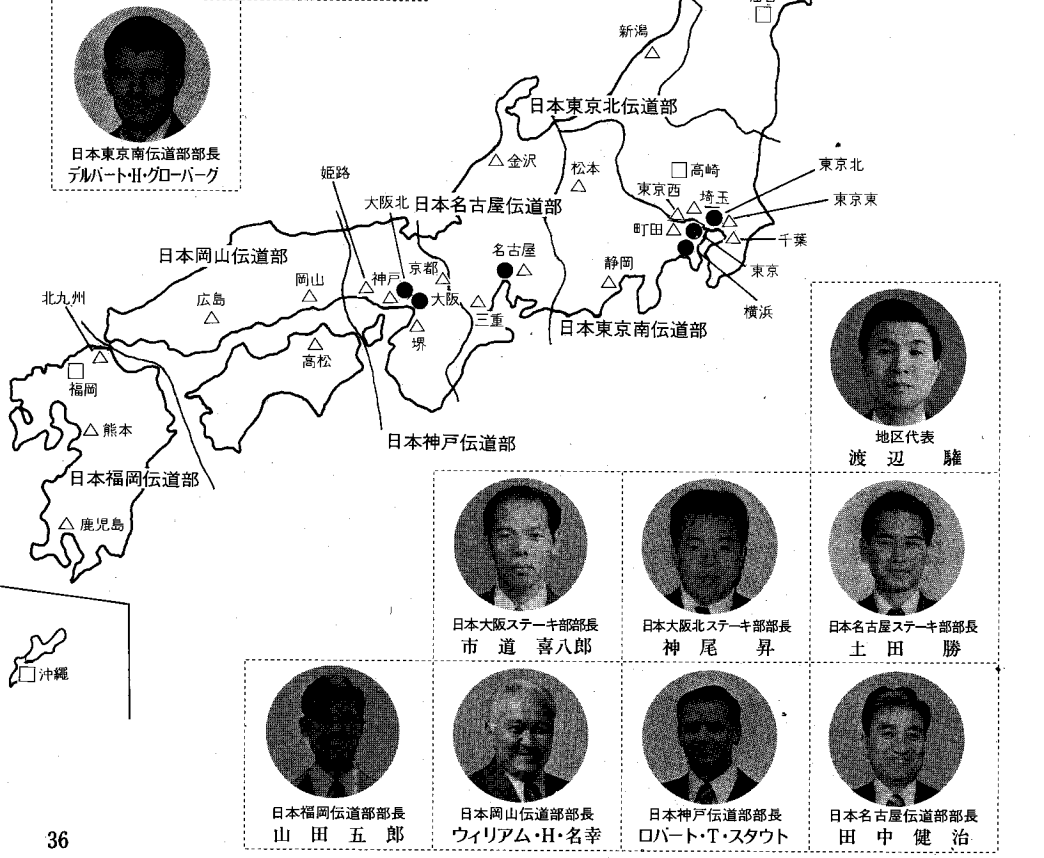
日本仙台伝道部部長
リチャード・D・S・クフック

日本東京ステーキ部部長
福田真

日本東京北伝道部部長
ハリソン・T・ブライス

日本横浜ステーキ部部長
柏倉仁

日本東京南伝道部部長
デルバート・H・グローバーグ



地区代表
渡辺驩

日本大阪ステーキ部部長
市道喜八郎

日本大阪北ステーキ部部長
神尾昇

日本名古屋ステーキ部部長
土田勝

日本福岡伝道部部長
山田五郎

日本岡山伝道部部長
ウィリアム・H・名幸

日本神戸伝道部部長
ロバート・T・スタウト

日本名古屋伝道部部長
田中健治

私は謙虚な気持ちで，大管長のおっしゃる通り，大管長の心が日本の皆様に伝わるように責任を果たしたいと思います。

私たちはキリスト様の「恵み」を受け，聖められるために，ふさわしく生活しなければなりません。聖められることが大切であること，またそのためにキリスト様が十字架におかかりになって下さったこと，キンボール大管長は真に神様と話され，私たちを助け導いてくださる方であることを証します。

日本の地に主のみたまが豊かに注がれるように精進したいと思います。

私は心からジョセフ・スミスがこの福音を回復した神の予言者であることを証します。

◇　◇　◇

神権の聖任に関する新しい啓示が下される

神権の聖任に関して主から新たな啓示が下され，すべての資格ある男性会員に神権が授けられるようになったことが，去る6月8日，大管長会より発表されました。教会の全神権役員に宛た大管長会の手紙の全文を以下に掲載致します。

末日聖徒イエス・キリスト教会の神権役員各位

拝　啓

現在世界各地で主のみ業が進展しており，多くの国々の民が回復されたメッセージを受け入れ，群をなして教会に加わっています。私たちはこのような発展を感謝しています。このことから私たちは，立派な生活を送っているすべての教会員に，福音のもたらすあらゆる特権と祝福が与えられるように望む気持ちを持つよう霊感されました。

神の永遠の計画の中でいつの日か，すべての資格ある兄弟たちが神権を受けるようになるであろうと約束している過去の予言者や大管長の言葉を知っていた私たちは，神権を差し止められている兄弟たちの忠実な姿を目にして，これら忠実な兄弟たちのために長い間，熱心に主に願って参りました。私たちは，何時間もの間，神殿の一室で主に導きを願い求めました。

その結果，主は私たちの祈りを聞き届けて下さいました。長い間待ちこがれていた約束の日が訪れたことを，主は啓示によって私たちに確認して下さいました。すなわち，教会の忠実で資格ある男性会員はすべて，聖なる神権を，その神聖な権能を行使する権威と共に受けることができ，またそれに伴い，神殿の祝福を初めとするすべての祝福を愛する者と共に享受できる日が訪れたのです。従って今後，教会のすべての資格ある男性会員は，人種や肌の色を問わず，神権への聖任を受けることができます。神権指導者は，アロン神権，メルケゼデク神権，いずれの場合も，聖任を受けようとする人が規定の標準にかなった生活をしているかどうか，教会の方針に従って入念な面接を行なうようにして下さい。

主は，主の承認したもう僕の声に耳を傾け，福音のあらゆる祝福を得ようと自らを備える全世界の主の子らすべてに祝福を与えようとしておられます。私たちは，主がそのようなみこころを今私たちに知らせて下さったことを，ここに謹んで宣言します。

敬　具

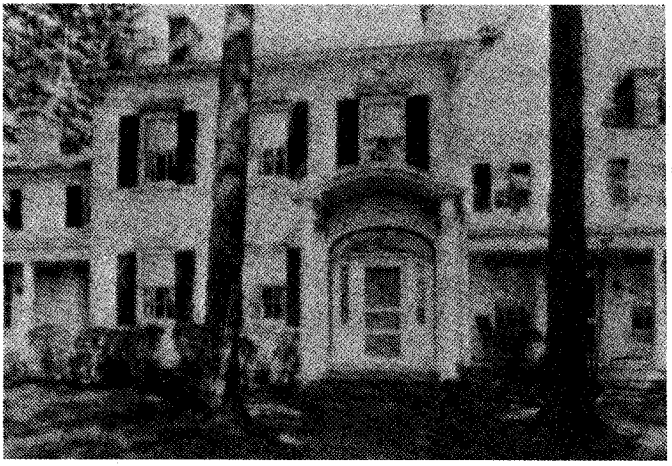
スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー
大管長会

ブリガム・ヤング

ユージン・イングランド著の
シリーズより

101年前の1877年8月29日に，ブリガム・ヤング大管長はこの世を去った。彼は，砂漠に花と咲いた350の市や町を導く指導者であり，10万を越える人々にとって文字通り神の代弁者，予言者であった。ブリガム・ヤング大管長は，予言者ジョセフ・スミスとその兄ハイラムの殉教後の試練の時期にこの教会を導いてきた。彼は何千という聖徒たちの2,200キロに及ぶ脱出行を指揮し，荒野に文明社会を築いた。また，彼は雄弁家であり，偉大な宣教師でもあった。さらに各種芸術を奨励し，大学や学校を設置し，準州知事を務めた。

この神権時代の第2代予言者の業績は，末日聖徒の間で広く知られている。しかし比較的なじみのないのは，彼の若い頃の生活と教会への改宗の話であろう。



ブリガム・ヤングが1820年代の初めに建築を手伝った家。ニューヨーク州オーレリウス近郊

教会の教えに初めて接した当時，ブリガム・ヤングは2週間も学校に通っていない状態であった。そこで彼の母親は学校教育の代わりに，家でできる範囲で子供たちを教育した。母親はブリガムに字の読み方を教え，父親は聖書の話を教えた。

ブリガムの両親は熱心で厳格なメソジスト教徒であった。しかし彼は両親の信心に追従するでもなく，かといって反抗するでもなかった。ブリガムは非常に独立心に富んでいた。そのため，自分の宗教を決める前に慎重に長い時間をかけて検討した。後に彼は，若い頃の経験を円熟した洞察力をもって振り返っている。

「私は若い頃，非常に厳格に行動を規制され，日曜日には運動のために30分以上歩くことも禁止されていた。……若い頃はダンスをしたことがなく，11歳になるまでバイオリンの美しい調べにひたることもなかった。また11歳になってそれを聞いた時に，このままぐずぐずしていると地獄へ落ちてしまうと感じたものである。私は自分の子供たちにそういう不自然な教育はしたくない。ダンスに行き，音楽を学び，小説を読んで，体の鍛練，精神の高揚，知性の向上を計り，心身共に自由を感じられるようなことをどんどんしてほしいと思っている。」（*Journal of Discourses*「説教集」2：94）

ブリガムは小さい頃に質素，勤勉を学んだ。椅子作り職人やペンキ屋に見習い奉公をした。そして18の年には立派な技術を身につけ，小規模ながら木工細工店を自営するようになった。階段吹抜きの装飾，入口の欄間，扉枠，階段の手すり，屋根裏よろい窓や暖炉前飾りの見事さに，工芸職人として彼は今でも西部ニューヨーク州で有名である。

彼はこう語っている。「価値のあることならとことんやるだけの価値があると思う。また，依頼主のために長持ちのする誠実なよい仕事をすることが，安息日に神を礼拝する行事に出席するのと同じように，自分の宗教の大切な一部であると考えている。」

ブリガム・ヤングは長い間まことの宗教を探し求めた。彼もジョセフ・スミスと同じように，両親の宗派に加わらなかった。あちらこちらの教会の集会に出て，家では実直，勤勉な愛情深い夫であり，父親であった。しかし，実直，勤勉な生活を送るだけでは飽き足りなかったことは明らかである。彼は霊的，精神的に満たされるものを求め，また人生の意義に関する数々の疑問に対して解答を求めていたに違いない。この回復された教会の初期の改宗者の多くがそうであったように，彼も行く先々で真理の自由な探究者たちの仲間入りをした。ブリガムの兄弟のピネアスはそのようなグループの指導者で，予言者の弟のサミュエル・スミスからモルモン経の初版のうちの1冊を入手した。しかし，ピネアスは自分の率いる宗教研究集団に，人々を間違った方向へ導くようなものを見せたくないという責任感から，モルモン経を一心に読んだ。その結果，懸念していたような誤りは見つからなかったので，次の安息日にグループに紹介することにした。恐らくブリガムもその場に同席していたことだろう。その時のことについて，ピネアスは次のように告げている。「この本について話したが，10分と経たないうちに，神のみたまが驚くべきかたちで私にとどまり，私はその書物の大切なことを聖書からの引用をまじえて長々と語った。そして

最後に，自分はこの書物を信じると人々に公言して話を終えた。」

ピネアスは自分のモルモン経を父親に貸し，父親はそれを「これまでに読んだうちで最高の本」だと考え，次にそれを姉妹のファニーに渡した。そしてそれを読んだ彼女は，「これは啓示だわ」と語っている。それからファニーはそのモルモン経をブリガム・ヤングに渡した。

「私は2年間一生懸命に研究した末，その本を受け入れる決心をした。……自分ですべてのことを立証する時間が欲しかった。」(「説教集」3：91)

また，ブリガムは別の折にこうも語っている。

「私はまずモルモン経を読み，次にそれを信じる人々と会ってみたいと思った。……良識ある人々かどうか，もしそうであったら是非聖典にふさわしい生活態度を見せてほしいと思った。……私はあらゆることをよく考え，納得して初めてその書物を心から受け入れた。」(「説教集」8：38)

それから1年半後，彼はついに行動を起こした。ペンシルベニア州コロンビアから訪れてきた宣教師のひとりがブリガムを前に，証を述べた日のことである。

「彼は雄弁ではないし，人前で話をする技量もありませんでした。しかし『私は聖霊の力によって知っています。モルモン経は真実です。ジョセフ・スミスは主の予言者です』と語る彼の姿を見ていた時に，聖霊が私の理解力を増し，私は光明と栄光と不滅の何かを感じた。私はその気持ちに包まれ，促されて，彼の証が真実であることを知った。……自分の判断力と天与の才能と教育は，単純だが力強いこの証の前に屈したのである。……それは私の全身を光で包み，心を喜びで満たした。」(「説教集」1：90)

ブリガム・ヤング大管長

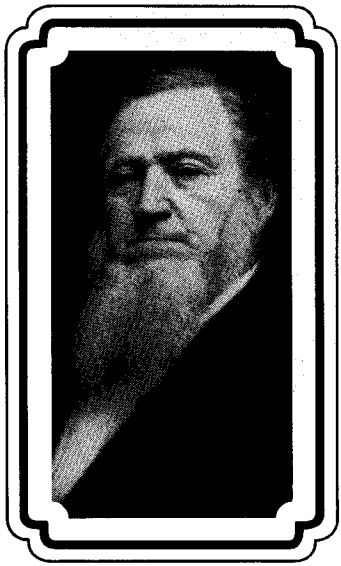
こうしてブリガムは，1832年4月15日に，力強い証を述べたあの宣教師から，メンドンの自分の店の裏手にある水路でバプテスマを受けた。

ブリガム・ヤングの教育観

教育は良いことである。教育を受けて，それを鼻にかけることなく福音伝道のために用いる人は祝福される。(「説教集」11：214)

この教会の会員は永遠の生命の教えを奉じている。私たちはその観点から自分の存在，存在の目的，そのための計画を理解し，赤子の状態から脱却して賢人となるべきである。そうする時に，私たちの日々は無知によって空白とならず，有益な日々となる。神は私たちをこの地に置き，私たちに能力を恵み，社

1833年にブリガム・ヤングが福音の教えを説いたとされている，ニューヨーク州オーバーン近郊の学校



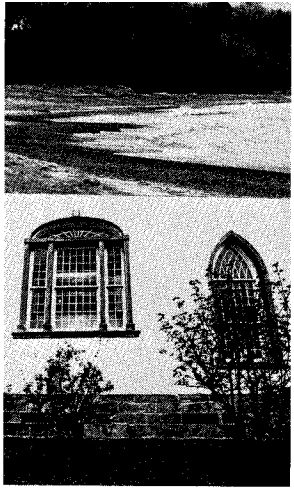
ブリガム・ヤング大管長

会の，国家の，また永遠の幸福を生み出すことのできる手段を与えて下さった。(「説教集」9：190)

人の子らが学ぶ様々な芸術や科学は福音に包含される。ここ数年間科学や機構の面ですぐれた業績があがっているが，その知識は，一体どこから来たのであろうか。その知識は神から来る。にもかかわらず，どうして人はその神を認めないのであろうか。それは自分の利益ばかりに目を奪われて，物事をあるがままに眺め，理解しようとしないためである。電気の利用を人に教えたのはだれか。人が独力でそれを発見したのだろうか。否，人はその知識を至高者から与えられたのである。発明，発見の栄誉は現在人に帰されている。しかし，あらゆる芸術と科学の源は神である。人は知識をどこから得たのであろうか。初めから自分自身の内に持っていたのであろうか。否，人は草の葉1枚つくることができないし，また他の物質の助けなしに1本の毛を白にも黒にも変えることができない。そうであるとすれば，貧者や無学者と同様，私たちは至高者に依存していることを認めざるを得ないのである。私たちは現在労働の省力化を図る非常に素晴らしい機械を作り上げる知識を，どこから得ているのだろうか。天からである。天文学の知識や，宇宙空間を貫き通して見る望遠鏡を作る力はどこから得たのだろうか。私たちはそれを，モーセや彼以前の人々が知識を得たと同じ御方，地球が水におおわれ，民は滅びるとノアに告げた同じ御方から得たのである。また，その御方から，この地球につける奥深い事柄，この地球に関連したあらゆる原則を探求する力が授けられている。(「説教集」12：257)

末日聖徒の奉じている宗教は，それをわずかでも理解する人々を，知識の探求に駆りたてるものである。真理を見聞きし，学び，知ることにこれほど熱心な民はほかにいない。(「説教集」8：6」)

環境がどうであれ，何ひとつ不自由ない境



上：ブリガム・ヤングとジョセフ・ヤングが伝道旅行途中に通った，オハイオ州アスタブラのエリー湖岸

下：カートランド神殿の説教壇の背後の窓。ブリガム・ヤングが設計し，施工したとされている

遇にいても逆境のさかなにあっても，あなたは周囲のあらゆる人々，出来事，すべての環境から学ぶことができる。(「説教集」4：287)

子供たちの教育は私たちが配慮する価値のある問題である。また，この壇上からの長老たちの教えもそうである。これは両親や次代の担い手たちの胸にしっかりと銘記すべき事柄である。(「説教集」13：262)

子供たちに母国語の基礎を正しく教え込む，それから順に高度な学問へ進ませなさい。あらゆる分野の真実で有益な学問を父親以上に習熟させなさい。国語がよくわかるようになったら，他国語を学ばせ，他国の風俗，習慣，法律，政治を習熟させなさい。また，芸術や科学に関するすべての真理と，そしてそれを現実の生活に適用する方法を学ばせなさい。地の上にあること，地の中にあること，天にあることを学ばせなさい。(「説教集」8：9)

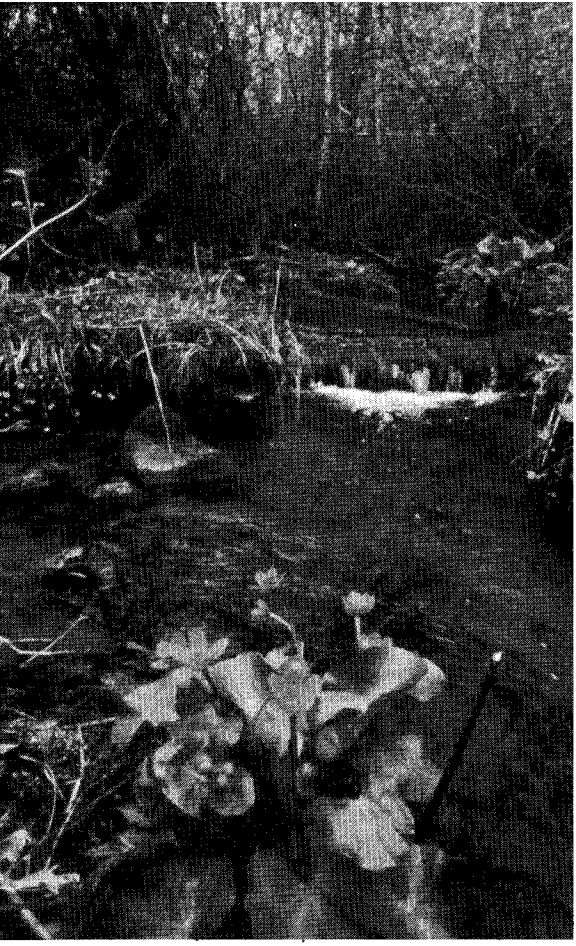
教会員は子女の教育に特別の注意を払うようにしていただきたい。できる限り，一般教育の施設を備えて，やがて若者たちが救いの使者，山間の神の王国の代表者として世にいでゆく時に，最良の社会と交際して，真理の原則を明瞭，聡明に説くことができるようにすべきである。あらゆる真理は天よりいで，また私たちの奉じる宗教に包含されるからである。

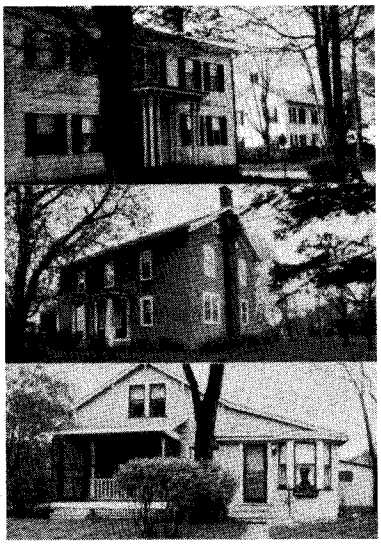
数学，音楽，その他あらゆる科学，芸術の世界におけるすべての偉業，高度な技術，人類への貢献は，ことごとく聖徒たちの中から生まれて然るべきものである。(「説教集」10：224)

私たちの教育は，知性をみがき，社会に貢献する能力を培い，人類家族によりよく奉仕するてだてとなり，粗野な生活，言葉，思考から脱却させるものとなるべきである。(「説教集」14：83)

私は子供たちが音楽の勉強や練習に熱心なのを見てうれしく思う。彼らには有益なすべての学問分野を学ばせなさい。私たち教会員は将来，宗教，科学，哲学において国々をしのぐ民となるからである。……

教会の学校に集う子供たちに教義と原則，人生の生き方に関して必要なことをすべて教えなさい。また，母親には，良妻賢母となるように，自分のことや女性の役割を果たす方法を学ばせなさい。姉妹たちには労働による節倹と家庭の管理法を学ばせなさい。(「説教集」12：122—123)





左：1829—30年にブリガム・ヤングが作業水車場を建てた地点。1832年4月15日に，ここでバプテスマを受けた。

右上：ブリガム・ヤングが青年時代にダンスを習ったニューヨーク州オーレリウスの宿屋

中央：最初の妻ミリアムに出会ったと言われている家

下：1829年父ジョン・ヤングのために建てたニューヨーク州メンドンの家

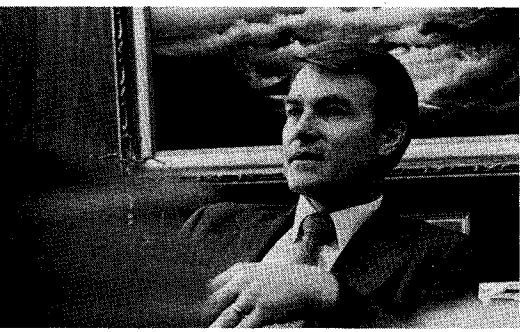
左：メンドンの作業水車場で使うために作った水力利用の旋盤

右：1829年頃メンドン在住中に作った椅子

結婚後短期間暮らしたヘイデンビルの家

発展する教会教育

宗教教育担当副委員長
ジョー・J・クリステンセン
兄弟との会見



記者：教会にセミナリーとインスティテュートのプログラムがあるのはどういう理由からですか。

クリステンセン兄弟：簡単に言えば，セミナリーとインスティテュートの目的は教会の若人の持つ天与の性質を伸ばし，育成する助けを家庭に与えることです。

記者：セミナリーとインスティテュートのプログラムは，世界各国で実施され，短期間に急速な発展を見ていますね。その発展状況を少し教えていただきたいのですが。

クリステンセン兄弟：セミナリー・インスティテュート・プログラムが世界各国で実施されるようになったのは，霊感によります。1970年の11月に，教会教育委員会は，セミナリーとインスティテュートを可能な限り早急に全世界の教会員に普及させることを決定しました。そして私たちは，教会員数とセミナリー・インスティテュート・プログラムの複雑さを考慮して，まずスペイン語，ドイツ語，ポルトガル語の諸国でこれを実施することにしました。それに伴う仕事は大変なものでした。テキストを翻訳し，各国に2ヵ国語を話せる教師陣をそろえ，各国から資料を取り寄せなければなりません。

しかし，初年度から驚くほどの反応がありました。例えば，グァテマラでは，初年度の登録生徒数が200名もいればよいと思っていたのが，1971年4月から6月までの3ヵ月間に750名を越える生徒が集まったのです。ブラジルのサンパウロでは，最初の1年間に900名以上の登録がありました。アルゼンチンとウルグァイでは合計700名の生徒が集まりました。

現在，セミナリー・インスティテュート・プログラムは，17ヵ国語，51ヵ国で行なわれています。そして間もなく55ヵ国にふえる予定です。今年度は全世界の登録人数が295,000人以上になっています。

記者：セミナリーとインスティテュートはどのように行なわれていますか。

クリステンセン兄弟：地理的に可能であれば，週日の早朝に1時間，ワード部やステーキ部の若人が一緒にセミナリーの早朝プログラムに参加します。

もうひとつは家庭学習プログラムです。これは教会員の少ない地方で行なわれます。支部の登録者がひとりであっても，週日に正式な宗教教育ができるのが，このプログラムの大きな特徴です。生徒たちは主として自分の家庭で勉強し，毎週一度日曜日か週日に集まってレッスンを受けます。

家庭学習プログラムが実施されている所では，各支部，各ワード部に1名の教師が召されます。そして教師は，生徒たちの勉強したことを調べます。また，資料やワークブック

など，生徒が勉強してきたものを調べるほかに，学習意欲を高める霊的なレッスンを行ないます。そして，生徒は新しい割当てを受け，資料を持って帰宅し，次の1週間それを勉強します。

普通，家庭学習プログラムに参加している生徒たちは，月に1回スーパー・サタデーという会に出席します。これは，150キロ内外の範囲で生徒や教師たちが集まり，専任の教師から教えを受けるものです。また，この集会に出席した生徒たちが若い男性・若い女性プログラムの活動に参加している間に，専任の教師は翌月の活動に関する指導を教師たちに与えます。

記者：学習コースとしてはどのようなものがありますか。

クリステンセン兄弟：高等学校程度のレベルで，旧約聖書，新約聖書，モルモン経，教会歴史と教義を勉強します。インスティテュートでは，教義と聖約，生ける予言者たちとその教え，交際と結婚，伝道の準備に関するコースがあります。

記者：高等学校のレベルと大学教育のレベルとでは学習する内容が違いますか。それとも，取りあげ方が違うだけですか。

クリステンセン兄弟：どちらも重点を置いているのは聖典と歴史的背景です。インスティテュートは聖典や背景が深く突っ込んだ内容ですし，セミナリーでは生徒の興味を引きつけ，動機づけを与える概念が強調されています。

記者：セミナリーやインスティテュートのレッスンは日曜学校とどのように違いますか。

クリステンセン兄弟：大きな違いは構成と教え方です。教会の補助組織では，教師用手引きしかありません。教師は生徒に必要であると思うことを教えるわけです。一方セミナリー・プログラムでは，生徒に1週間毎日個人学習するための資料が渡されるので，当然，セミナリー・インスティテュート・プログラムの方が資料がずっと多くなります。

記者：何か課題はありますか。

クリステンセン兄弟：量が増す一方で質を落とさないようにすることです。効果的に，しかも経済的に行なうということが課題だと思います。

もうひとつ大切なことは，両親にこのプログラムを理解していただくことです。授業参観や若人との話の中から内容を理解していただくようにしています。このプログラムを理解して下さった両親の方々は，非常に熱心に若人の参加を促し，よく手伝って下さいます。

記者：両親が参加できる，成人を対象とした学習コースはありませんか。

クリステンセン兄弟：インスティテュートは成人を対象に計画されたプログラムで，そのために個人学習ガイドが準備されています。モルモン経，新約聖書その他，全部のコースに個人学習ガイドがそろっています。また，希望すればだれでも，週日に正式な成人向け宗教教育が受けられます。

末日聖徒の学生が大勢になれば，どの大学にもインスティテュートを併設します。けれども，大学に通っていない人や，大学に通っていてもインスティテュートの時間にクラスに出られないという人々が大勢います。そこで，もし神権指導者が個人学習プログラムに関心を持って支持して下さるならば，神権指導者の要請に応じてプログラムが実施されるようになっています。すべての人に福音を勉

強する機会を提供することが，私たちの目標だからです。

記者：両親はそのほかにどのような祝福を受けていますか。

クリステンセン兄弟：インスティテュート・プログラムが開始された当初は，生徒数が心配でした。しかし，今は大勢の人々が参加しています。私たちは皆福音を勉強して証を強める必要があります。

教会に入って日の浅い教会員が多数を占める地方では，特に個人がめざましい成長を遂げています。先日，3年前に改宗したという父親と話す機会がありましたが，彼はこう言っていました。「バプテスマを受けるとすぐに，支部の日曜学校会長会に召されました。そのために，日曜学校のクラスで福音を勉強する機会がほとんどなくなりました。ですから，今ではセミナリーに出席している子供たちの方が，私よりも福音に通じています。」この父親は，もっと速く福音についてたくさんのことを学べる方法を捜していました。家で子供たちに遅れを取りたくなかったのです。そこで，インスティテュートのプログラムに頼ることにしました。このプログラムは改宗して間もない教会員にとって特に有意義です。しかし長い歴史のあるステーキ部でも福音をもっと知りたいと切実に考えている人々がいます。

記者：神権指導者はどのようにすれば若い人々をこのプログラムに登録させ，活発に活動させることができるでしょうか。

クリステンセン兄弟：大切なことは，教会の教育組織と教会の指導者が協力して，若人のためになる宗教教育を実施することです。指導者は利用可能な援助手段を使って各生徒を助けるようにします。

ワード部でいえば，監督は幹部書記の助けを借ります。ステーキ部も同様です。幹部書記は，監督会，ステーキ部長会，高等評議員会のアジェンダに教育の項目を加えて，検討の必要な問題や，教会の指導や力について話合いが行なわれるようにします。

また，神権指導者は週日の宗教教育に関心を持ってほしいと思います。キンボール大管長は「歩みを速める」運動の中で，神権指導者，生徒，両親など，大勢の人々に福音を学ぶ責任のあることを強調しておられます。また，セミナリー・プログラムは若人に福音を教え，彼らの証を強める良い手段であると言われました。このプログラムを推し進める時に，大勢の若人が伝道に出るようになります。

記者：セミナリー・インスティテュート・プログラムに参加するのにどれくらいの費用がかかりますか。

クリステンセン兄弟：授業料はただです。しかし，生徒の活動費用が少しかかります。また，本やテキストや学習ガイドなど，個人用の資料として購入していただくものがあります。基本的には，生徒の支払うお金は活動や資料の形で生徒に戻ってきます。

私たちは，経費の問題で福音を勉強できないという人がひとりもいないようにと願っています。経済事情がどうであろうと，全員に福音を学ぶ機会が与えられるようにしたいと思います。福音の精神を理解した末日聖徒ならば，何としてでも子供たちがもっと祝福を受けられるようにすると思います。

記者：低所得家庭の子供たちはどうすればよいのでしょうか。特別な規定がありますか。

クリステンセン兄弟：監督や支部長が気をつ

けていて，費用を捻出できない人に十分な援助を与えていただきたいと思います。

また，生徒による相互援助プログラムもあり，大勢の生徒が資金を出して経済的な問題で参加できない人々を援助しています。

記者：セミナリー・インスティテュート・プログラムはどのような祝福をもたらしていますか。

クリステンセン兄弟：若人がセミナリー・インスティテュート・プログラムに参加している所では，個人やワード部，ステーキ部，伝道部に成長が見られます。フィリピン・マニラ・ステーキ部のアウグスト・リムステーキ部長は，ステーキ部長に支持された時に，経験のある指導者が少なくてステーキ部が存続できるかどうかと心配していました。しかし後に彼はこう語っています。「セミナリーやインスティテュートを受けて福音を学び，教えることさえもできるようになっている人々が大勢いるのがわかりました。セミナリー・イスティテュート・プログラムがこの地方の指導者を養成してくれました。」

また，しばらく前にペルーの伝道部長を訪れた時，伝道部長はこう言いました。「この5ヵ月間，北アメリカからの宣教師の派遣がありません。1年前にはペルー人の専任宣教師は2，3人でしたが，今では45人になり，今年度末には100人になる見込みです。」

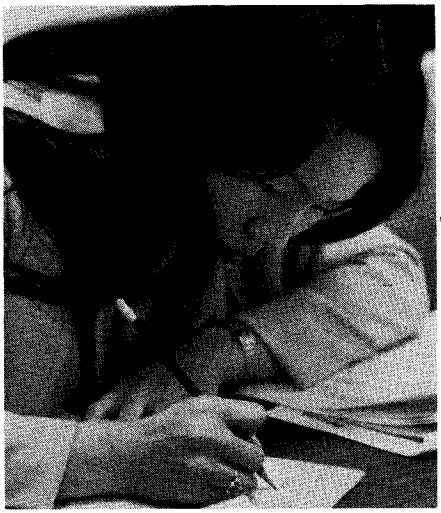
宣教師になって自分の国で働いている若人は，もっと大勢います。ブラジルでは5割以上がブラジル人の宣教師です。その結果，改宗率は高くなっています。セミナリーとインスティテュートが若人に大きな影響を及ぼしていることは，いろいろな証拠から明らかです。

しかし，すべてがセミナリーとインスティテュートのおかげだとは言えません。教会には宣教師の養成に役立つプログラムがたくさんあるからです。予言者も伝道活動を強調しています。しかし，世界各国から伝道に出た宣教師たちに「伝道に出ようと決心するにあたって最も影響が大きかったのは何ですか」と質問すると，セミナリーで福音を学んだこと，という返事が多いという調査結果があります。福音を学び，福音の精神を理解した若人ならば，伝道に出るようにという予言者の勧めにきっと応えてくれることでしょう。逆に，福音を勉強せず，そういうことに興味を持たなかったら，ノアのように予言者が120年間説き続けたとしても，何の反応も得られないに違いありません。神の予言者と，その言葉に聞き従う民がいてはじめて，物事は始まるのです。

現在の発展状況を考えると胸が躍るばかりです。教会教育委員会が1970年11月に世界各国でこのプログラムを進めるという決定を下した時，それは確かに霊感によったと思います。そして今，私たちはその霊感のもたらした恵みを刈り取り，週日の福音学習から得られる祝福を大勢の人々に与えようと一生懸命に努めているのです。

☆　　☆

人生にめざめました



「おかげで人生が変わりました。そして，私は大きな感化を受けて，伝道に出ることになりました。」

「教会歴史のコースで勉強して，バプテスマを受けなければならないという証を得ました。」

「いろいろとためになりました。伝道に出る準備が整い，福音の知識と証が増し，支えと励みとを得ています。」

3人のチリ人宣教師がこう語るのは，一体何のことだろうか。セミナリー・インスティテュート・プログラムである。このプログラムにこのような気持ちを抱くのは，決して彼らに限ったことではない。

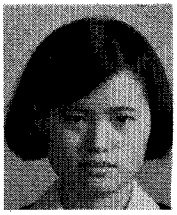
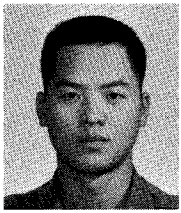
教会の教育プログラムが世界各地で進められるようになってから，青年に限らず，何千何万という教会員が似たような経験をしている。前のページには宗教教育担当副委員長のジョー・J・クリステンセン兄弟との会見の記事が載っている。その会見で，クリステンセン兄弟は，セミナリー・インスティテュート・プログラムの歴史と，機能と，影響について語っているが，このプログラムにはそのような大きな力がある。個々の参加者やその家族，ワード部や支部，学友その他，大勢の人々の生活にその影響は及ぶのである。

最近，セミナリーとインスティテュートの参加者と修了者，両親，神権指導者に，このプログラムに対する感想を募ったところ，世界各国からたくさんの手紙が寄せられた。ドイツ語から中国語まで，言葉は様々であったが，言わんとすることはどれも同じであった。その中から幾つかを御紹介しよう。

ブラジルから――「伝道の召しを受けるに至った訳と，良い伝道ができた理由をいろいろと考えてみた時，セミナリー・プログラムから大きな影響を受けたことに気づきました。

セミナリーで学んだ教えの中で，自分に一番意義があったのは，家族が大切であるという教えです。」

ペルーのリマに住むある父親も，このプログラムが家族を強めるのに大きな影響力を持

っていると語っている。「セミナリーで学び始めてから息子の生活は非常に変わりました。そして，家庭での親子関係まで違ってきました。今私は息子を実に誇りに思っています。彼の精神に感化され，私たち家族の生活が変わったように思います。」

セミナリー・インスティテュート・プログラムは，ワード部や支部の若人と他の教会員との関係にも影響を及ぼす。ドイツに住むある若者は，伝道に出る前に，以前のセミナリーの教師に次のような手紙を書いた。「私は支部に親しみを感じています。兄弟姉妹に会える集会がいつも楽しみです。……幸せで楽しいんです。このような気持ちを持てるようになったのは，セミナリーの影響によるところが大きいと思います。」

セミナリーやインスティテュートの生徒から来るすべての手紙に共通した事柄がある。それは，活発に参加した結果，知識と証が深まったということである。

「セミナリーに出席したおかげで，私の霊性は高まり，救い主についての知識が増しました。そして，この知識が私の信仰の基礎になっています。回復された福音に対する証と確信を持つことができて，私は今幸せです。」こう語るのは台湾の生徒である。

「旧約聖書を勉強してから，聖典を読み，そこで学んだ教えを日常生活に応用することの大切さを知りました。」ブラジルの若い宣教師はこう語っている。「また，モルモン経を学ぶことによって自分の証を揺るぎないものにすることができ，まだ教会を知らない人々に証を述べたいという気持ちが強くなりました。そして，新約聖書のコースで救い主の生涯を勉強して，自分と救い主との関係の深さを初めて知りました。」

教会員でない人々も，セミナリーやインスティテュートから多くのものを得ている。台湾出身のある青年はこう言っている。「まだ求道者の時に，セミナリーに登録しました。おかげで信仰と証が強められ，バプテスマを受けて教会に入ろうという勇気が出ました。」

また，不治の病で入院していたドイツの少女，バーバラの例もある。彼女がインスティテュートの勉強に没頭している姿に，ある看護婦が興味を持った。そして彼女は，バーバラから話を聞いてテキストを注文した。バーバラは翌年この世を去ったが，その看護婦は教会に入った。

前にも述べたように，セミナリーとインスティテュートの生徒から寄せられた手紙は多く，このプログラムから感化を受けた人の例はまだまだたくさんある。それをひと言で表現したのが，「私はセミナリー・プログラムのおかげで人生にめざめました」というチリ人宣教師の言葉であろう。

聖徒の道　1978年 8月20日（毎月1回20日発行）　第22巻第8号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可